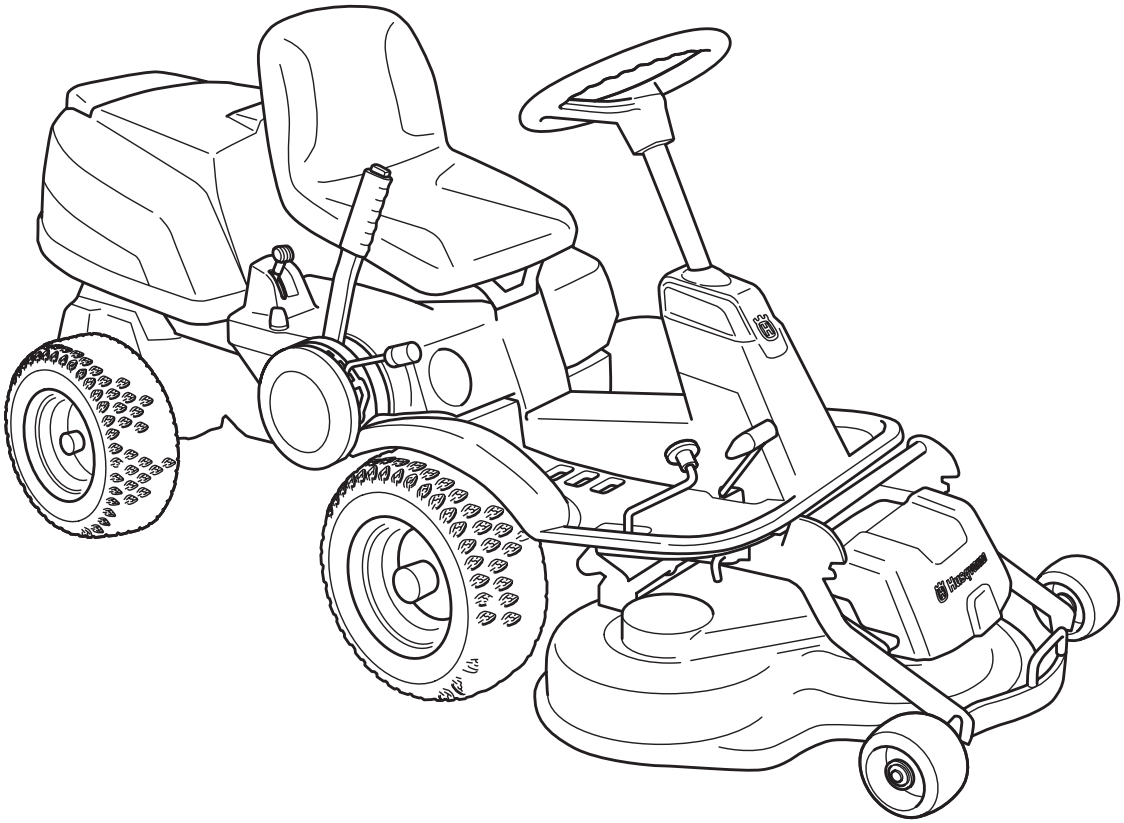
CANYCOM

主役

芝 耕作 R 13 AWD

取扱説明書



⚠ 警 告

・本書を読んで理解するまでは、本製品の運転および保守・点検を行わないでください。
・本書は、本製品の運転または保守・点検を行う場合、いつでも参照できるように大切に保管してください。

株式会社 筑水キャニコム

〒839-1396　福岡県うきは市吉井町福益90-1
TEL (0943)75-2195（代）　FAX (0943)75-4396

目　次

目次

目次
目次 2

はじめに
お礼 3
公道での運転と運搬 3
牽引 3
ご使用 3
良質なサービス 4
製造番号 4

サービスジャーナル
納品前サービス 5
初回5時間運転後 5

シンボルマークの意味
シンボルマーク 6

安全な取り扱い
安全な取り扱い 8
斜面での運転作業 9
子供 10
メンテナンス 10
運搬 11

各部名称
コントロール配置 12

プレゼンテーション
プレゼンテーション 13
Rider 13 AWD 14
駐車ブレーキ 14
カッティングユニット 14
カッティングユニット昇降レバー 14
刈高調節レバー 15
シート 15
給油 15

運転
運転の前に 16
エンジン始動 16
弱いバッテリーでのエンジン始動 17
Riderの運転 17
芝刈り作業の方法 18
エンジン停止 19
Release lever 19

メンテナンス
メンテナンススケジュール 20

清掃
本機カバーの取り外し 21
ステアリングワイヤーの点検と調整 22
ブレーキ調整と確認 22
Rider13AWD駐車ブレーキ調整と確認 22
スロットルワイヤーの点検と調整 23
エアーフィルターの交換 23
燃料フィルターの交換 24
燃料ポンプのエアーフィルター点検 24
タイヤ空気圧の点検 24
バッテリー液レベルの点検 24
イグニッションシステム 24
メインヒューズ 25
安全装置の点検 26
エンジン冷却エアーインテークの点検 28
カッティングユニット接地圧の点検と調整 28
カッティングユニット平行度の点検 28
カッティングユニット平行度の調整 28
カッティングユニットのサービスポジション 29
ブレードの点検 31
BioClip (バイオクリップ) プラグの取り外し 31

給油
エンジンオイル量の点検 32
オイルフィルターの交換 32
トランスミッションオイル量の点検 33
ベルト調整部への給油 33
一般的な給油 33

トラブルシューティング･スケジュール

保管
冬季の保管 35
ガード 35
サービス 35

テクニカルデータ
EC 適合宣言 (ヨーロッパのみ) 39

はじめに

お礼

Husqvarna (ハスクバーナ) 製Rider (ライダー) をご購入して頂き、ありがとうございます。Husqvarna 製Rider は、フロントに装着されたカッティングユニット、特許を取得している関節式ステアリングシステムを持ち、独創的に設計されています。Rider は小さく制限された区域でも最大の効率を得られるように考慮されています。集中されたコントロールと油圧トランスミッションの操作ペダルもまた、この機械の特徴です。

この取扱説明書をぜひ活用して頂き、本書 (操作、サービス、メンテナンス等) に従うことにより、機械の寿命を延ばし中古機としての価値も伸ばすことになるはずです。

Rider を売却される時は、新しいオーナーに取扱説明書を渡して下さい。

取扱説明書の最終章は、整備記録が含まれています。すべての整備や修理が記録されていることを確認して下さい。しっかりと記載されたサービス記録は、季節毎のメンテナンスを減らし、中古機としての価値を高めます。Rider を正規販売代理店に持ち込む際には、取扱説明書も一緒にお持ち下さい。

公道での運転と運搬

公道を運転あるいは運搬する時は、運転前に道路交通法を確認して下さい。機械を他の車両等で運搬する時は、常に認証された装置を用い、機械がしっかりと固定されていることを確認して下さい。

牽引

油圧トランスミッション搭載機の場合、トランスミッションを傷めないために、必要であれば低速で牽引することが出来ます。牽引の際、トランスミッションは接続を解除しておく必要がありますので、本書“ 油圧駆動ロック解除レバー” をご参照下さい。

ご使用

この機械は、石、切り株などの障害物のない平らな通常の芝を刈るためのみを目的として設計されています。
メーカーからの特殊なアクセサリーを装着していたとしても同様です。他の目的で使用することは間違いです。
本書に記載される、運転、メンテナンス、修理に関しての事項は正確に守って下さい。

本機の特長や安全規則を理解した人のみが、機械の操作、メンテナンス、修理を行って下さい。

事故予防規則、その他一般的な安全規則、職業安全規定、道路交通法を常に遵守して下さい。

不当改造された機械による人体の怪我や機械の損傷などに関しては、一切の責任を負いかねます。

はじめに

良質なサービス

Husqvarna 製品は、世界中でサービス体制の整っている販売店を通してのみ販売されています。これにより、お客様への最高のサポートやサービスを確実にしています。例えば、お客様への納入前に、販売店により機械の検品や調整が行われます。この取扱説明書のサービスジャーナルにある証明書をご参照下さい。

スペアパーツが必要な時や、サービス問題、保証期間に関するご不明な点は、販売店にお尋ね下さい。

本取扱説明書は下記の機械製造番号用:	エンジン	トランスミッション

製造番号

製造番号プレートは、シート下の左側前方に貼ってあります。製造番号プレートには、上から次の内容が記載されています:

- 機械タイプ名称
- 製造工場タイプ番号
- 機械製造番号

部品ご注文の際、機械タイプ名称と機械製造番号が必要になります。

エンジン製造番号は、セルモーター前のクランクケース左側に、バーコードステッカーとして貼ってあります。ステッカーには、次の内容が記載されています:

- モデル
- タイプ
- コード

部品ご注文の際は、これらが必要になります。

トランスミッションの製造番号は、車軸左側ハウジング部にバーコードステッカーとして貼ってあります:

- 機械タイプ名称はバーコード上部に、“K” から始まる文字で記載されています。
- 機械製造番号はバーコード上部に、“s/n” から始まる文字で記載されています。
- 製造工場タイプ番号はバーコード下部に、“p/n” から始まる文字で記載されています。

部品ご注文の際、機械タイプ名称と機械製造番号が必要になります。

サービスジャーナル

納品前サービス

1 バッテリー液補充、及び4 時間の充電 ☐

2 ステアリングホイール、シート、その他部品の取り付け ☐

3 カッティングデッキの調整:

リフトスプリングの調整 (カッティングユニット有効重量 12 ～ 15kg / 26.5 ～ 33 lb) ☐

カッティングユニットの後端が前端より 2 ～ 4 mm / 1/8” 高くなるように調整 ☐

カッティングユニットの最低刈高時に、ユニットのフレームよりデッキが 5 mm / 3/16” 高くなるように調整 ☐

4 エンジンに適量のエンジンオイルが入っていることの確認 ☐

5 トランスミッションのオイルタンクにオイルが入っていることの確認 ☐

6 タイヤ空気圧の確認・調整 (60 kPa, 0.6 bar) ☐

7 バッテリーの接続 ☐

8 燃料を入れ、エンジン始動 ☐

9 ニュートラル時に本機が停止していることの確認 ☐

10 点検:

前進運転 ☐

後進運転 ☐

ブレード回転 ☐

シート部の安全スイッチ ☐

カッティングユニット昇降レバーの安全スイッチ ☐

ブレーキペダルの安全スイッチ ☐

エンジン回転数の確認 2950rpm ☐

11 お客様への説明:

メンテナンス・スケジュールに従うことの必要性と利点 ☐

本機再販時におけるメンテナンスとサービス・ジャーナルの利点 ☐

BioClip (バイオクリップ) 機能の説明 ☐

販売資料への記入等 ☐

納品前サービスを行い、問題点がないことを確認したことを認定します: ☐

日付、印、サイン

初回5時間運転後

1 エンジンオイル交換 ☐

シンボルマークの意味

シンボルマーク

これらのシンボルマークは機械の上と取扱説明書の中にあります。

警告! 不注意や誤った使用により、作業者や周りの人に、重大なケガあるいは致命傷を引き起こす恐れがあります。

本機をご使用になる前に、この取扱説明書を注意深くお読み頂き、内容を理解して下さい。

常に下記のものを着用して下さい:

・承認されたイヤマフ

この製品はEC 規格適合製品です。

戻る

中立

速い

遅い

エンジン停止

バッテリー

チョーク

燃料

オイルレベル

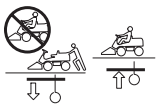
刈高

後進

前進

イグニッション

油圧駆動ロック解除



クラッチ接続

クラッチ接続解除

駐車ブレーキ

ブレーキ

クラッチ

周囲に放出される騒音はヨーロッパ共同体(EC) の指令に従っています。本機の騒音排出に関しては“ テクニカルデータ” の章および銘板に記述されています。

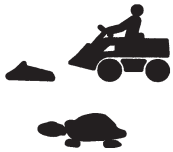
エンジン運転中、フード下ロータリーブレードに手足を近づけないこと

本機転倒の危険あり

斜面の横断禁止

人、特に子供、また動物が作業範囲にいる場合は、本機の使用禁止

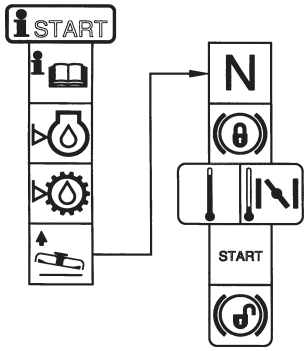
本機または装置による人の輸送禁止



カッティングデッキ未装着時は低速運転

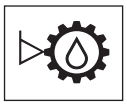
シンボルマークの意味

始動手順



エンジンオイル量の点検

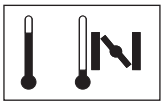
トランスミッションオイル量の点検



カッティングユニット上昇

駐車ブレーキ適用

エンジン冷間時、チョーク使用



運転前、駐車ブレーキ解除

修理やメンテナンス前に、エンジンを停止しスパークプラグケーブルを抜くこと

安全な取り扱い

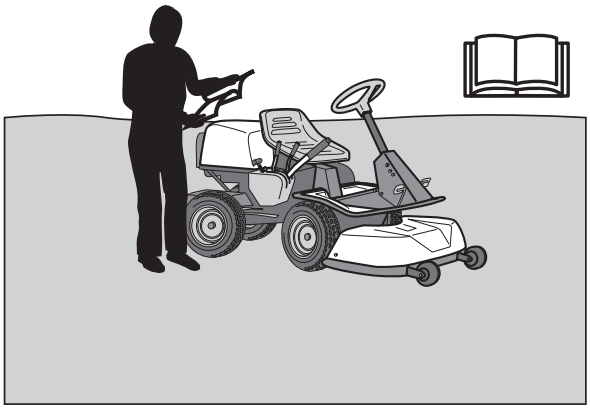
安全のための説明です。注意深く読んで下さい。

Rider への保険

- お買い上げのRider への保険担保を確認して下さい。
- 保険会社に問い合わせして下さい。
- 対人、火災、損害、盗難、障害を含む総合担保保険をお勧めします。

一般的な使用

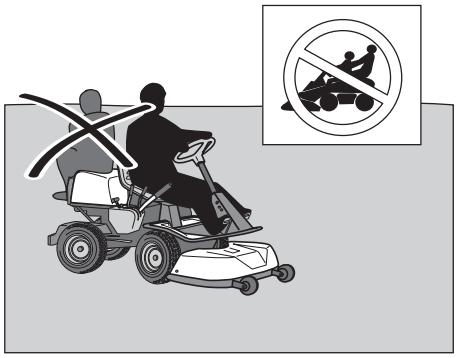
- 使用前に、この取扱説明書と本機に記載されている内容を全てお読み下さい。内容を理解し遵守すること。



警告! 本機のイグニッションシステムは、操作中に電磁界を生成します。この電磁界は、ある状況下ではペースメーカーに支障を来たすことがあります。深刻な又は致命傷の危険を避けるため、ペースメーカーを使用している人が本機を操作する前に、主治医およびペースメーカーの製造元に相談することをお勧めします。

- 安全な本機使用法と、素早い停止法を理解すること。また、安全ステッカーの意味を理解すること。
- 取り扱い方法を理解している大人以外は本機を操作しないこと。
- エンジン始動時、運転時は機械の周囲に人がいないことを確認すること。
- 作業範囲にある石、おもちゃ、ワイヤー等は、ブレードにより飛散する恐れがあるので予め取り除くこと。

- 草の排出口清掃が終わるまでは、エンジンを停止し始動しないようにすること。
- 草の排出口に注意を払い、人には向けないこと。
- カッティングユニット清掃前に、エンジンを停止しエンジンが始動しないようにすること。
- 作業者は危険や事故に対して責任があることを忘れないこと。
- 決して人を運ばないこと。本機は1 名のみが運転乗車し使用すること。



- 後進する際、常に下方と後方を見ること。大小障害物に注意すること。
- 曲がる前に走行速度を下げること。
- 芝を刈らない時は、ブレードを停止すること。
- 動かせない障害物の周りを運転する時は、ブレードを接触させないよう注意すること。決して障害物の上を通過しないこと。

警告! 本機により手足の切断や、異物を飛散する可能性があります。取扱説明書を遵守しないと重大な事故に至る恐れがあります。

警告! エンジン排気ガス成分は、癌、出生異常、その他生殖機能障害などを引き起こす恐れがあります。エンジンは無色有害な一酸化炭素を排出します。密閉された場所で機械を使用しないこと。

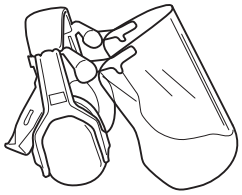
- 日中あるいは十分に照明された状態でのみ本機を使用すること。地面の穴やその他凹凸などから、安全な距離を保つこと。その他、可能性のある危険に注意を払うこと。
- 疲れている時、アルコール飲料を飲んだ後、視力や判断力の低下に影響を与える薬を服用している場合は、本機を使用しないこと。
- 公道の近くで作業をする時や、公道を横切る時は十分交通に注意を払うこと。
- エンジンをかけたまま本機から離れないこと。常にブレードを停止し、駐車ブレーキを作動させ、エンジンを停止しイグニッションキーを取り外すこと。

・ 子供やトレーニングを受けていない人には決して本機の使用または修理をさせないこと。条例により使用者の年齢制限をしている場合もあります。

警告! 機械を使用する時は必ず認証された防護装具を着用すること。事故が発生した場合、個人用防護装具はケガの危険性を取り除くことは出来ませんが、ケガの度合いを低減します。正しい装具の選択に関しては販売店にお尋ね下さい。

・ 聴覚障害の危険性を低減するため、イヤマフを着用すること。

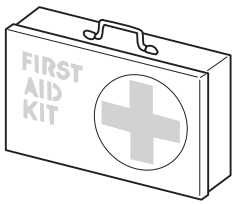
・ 組立時や運転時は、認証された保護メガネやバイザーを常に着用すること。



・ 可動部品に挟まれないように、ゆったりとした衣服は着用しないこと。

・ 裸足で本機を使用しないこと。つま先に金属が入っている安全靴などを常に着用すること。

・ 本機を使用する際には、緊急用具を手元に常備すること。



斜面での運転作業

・ 斜面での運転作業は、操作不能になったり、機械が転倒して重大な人身事故が発生する危険性があります。十分注意して下さい。後進できなかったり、不安を感じたら、作業を中止して下さい。

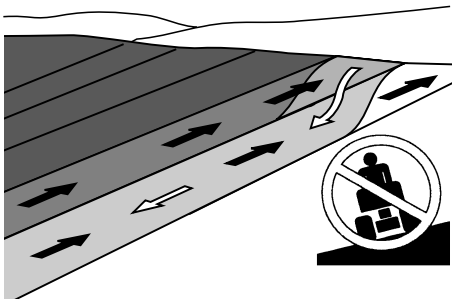
重要情報

ユニットを上げたまま斜面を下り運転しないこと。

遵守事項

・ 石や小枝等の障害物は取り除くこと。

・ 上り下りで芝を刈ること。横切って作業しないこと.



・ 傾斜が10度を超える斜面では使用しないでください。

・ 斜面での始動、停止は避けてください。タイヤがスリップを始めた時は刈刃を停止し傾斜をゆっくり下りてください。

・ 傾斜地では常にゆっくりとスムーズに運転してください。

・ 急な過減速や旋回は行わないでください。

・ 斜面では必要のない旋回を避けてください。
必要な場合は、可能であればゆっくりとゆるやかに下降するようにしてください。 ゆっくりと運転し、急旋回しないでください。

・ 地面の溝や穴、隆起などに良く注意して避けるようにしてください。
不整地では車両が転倒しやすくなります。
また、丈の長い草地は障害物が隠れるので注意してください。

・ 付属装置が取り付けられている場合、本機の安定性が変化するため、十分注意すること。

・ 端や溝、あるいは土手の近くで芝刈り作業しないこと。
車輪が穴に落ちたり、土手に乗り上げたりすると、本機が突然転倒する恐れがあります。

・濡れた芝は刈らないこと。滑りやすくタイヤがグリップを失い、機械が滑ります。

・片足を地面に置いてバランスを取ろうとしないこと。

・シャーシを清掃する時は、端や溝近くに運転しないこと。

・安定性向上のためのカウンターウェイトやホイールウェイトについて、取り扱いにご注意下さい。

重要情報
傾斜面での、より安全な操舵性と操作性を得るために、リヤホイールへのホイールウェイト装着をお勧めします。お買い求めの販売店にお尋ね下さい。AWD 機にホイールウェイトは使用出来ません。カウンターウェイトを使用して下さい。

子供

・作業者が機械の近くにいる子供に注意を払わないと、悲惨な事故が起きる可能性があります。子供は機械や芝刈作業に興味を持ちます。最後に見た所に子供がいると推測しないこと。

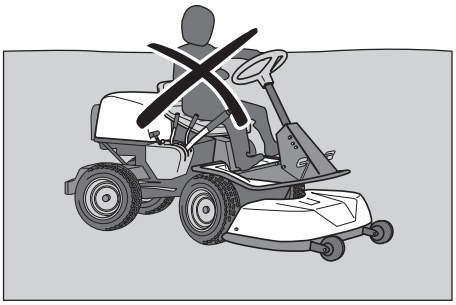
・子供は芝刈現場から遠ざけて、他の大人の監視下に置くこと。

・子供が作業現場に近づいて来たら、機械を停止すること。

・後進走行前と後進走行中は、小さい子供がいないか、後方と下方をよく見ること。

・子供を機械に乗せないこと。機械から落ちて重大な人身事故につながる恐れがあります。また、機械操作の妨げになります。

・決して子供に機械を運転させないこと。



・コーナー、ブッシュ、木あるいは他の障害物の近くは視界が悪くなるので、特に注意すること。

メンテナンス

・エンジンを停止します。いかなる調整やメンテナンスを行う前に、スパークプラグからイグニッションケーブルを抜き、イグニッションキーを抜き、始動することを防ぎます。

・決して屋内では燃料を給油しないこと。

・燃料とその蒸気は有毒で、非常に高い可燃性があります。取り扱いには十分注意すること。ケガや火傷を引き起こす場合があります。

・燃料は専用の容器でのみ保管すること。

・エンジン運転中は燃料キャップを外したり、燃料を給油しないこと。

・エンジンが冷えてから給油すること。喫煙しないこと。裸火や火花の近くで燃料を給油しないこと。

・オイル、オイルフィルター、燃料、バッテリーは環境に配慮して取り扱うこと。地域のリサイクル規則を遵守すること。

・感電に注意すること。エンジン運転中はケーブルに触れないこと。指でイグニッションシステムのテストをしないこと。

警告! 運転中、エンジンと排気システムは非常に高温となります。触れると火傷の恐れがあります。

・燃料系統で漏れが発生した場合、問題が解決されるまでエンジンを始動しないこと。

・機械と燃料は、燃料や蒸気の漏れによりいかなる損傷を引き起こす恐れのない場所に保管すること。

・機械を使用する前に、常に燃料の量を確認すること。エンジンや太陽の熱によって燃料が膨張するので、タンクを満タンにしないこと。

・燃料を入れ過ぎないこと。燃料を機械にこぼしてしまった場合、燃料を拭き取り完全に乾燥させてからエンジンを始動すること。衣服に燃料をこぼしてしまった場合、着替えること。

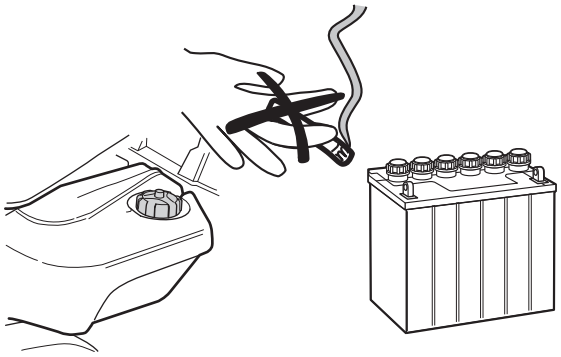
・エンジン構成部品の作業を行う前に、エンジンを冷却させること。

警告! バッテリーは鉛、鉛化合物、薬品を含んでおり、それらは癌、出生異常、その他生殖機能障害等を引き起こす恐れがあります。バッテリーに触れた後は手を洗うこと。

・バッテリー液の取り扱いには十分注意すること。バッテリー液が皮膚に触れると火傷をする恐れがあります。皮膚にバッテリー液をこぼしてしまった場合、直ちに水で洗い流すこと。

・バッテリー液が目に入ると失明の恐れがありますので、直ちに医師に連絡すること。

・バッテリーのメンテナンスには注意を払うこと。バッテリーの中で爆発性ガスが発生します。バッテリー取り扱い中は禁煙とし、裸火や火花がある場所では取り扱いしないこと。最悪の場合、バッテリーが爆発し、重大なケガをする恐れがあります。



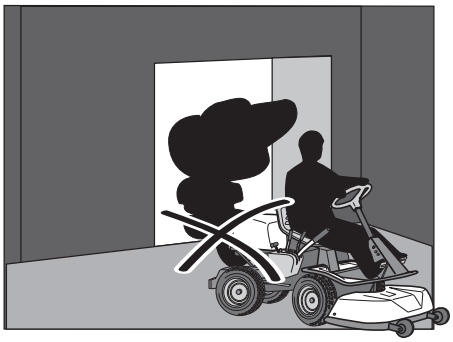
・すべてのナットとボルトが正しく締結され、装置が良い状態であることを確認すること。

・安全装置を改造しないこと。正しく動作するか、定期的に点検すること。保護プレート、保護カバー、安全スイッチあるいはその他保護装置が取り外されていたり不良の場合、機械を運転しないこと。

・エンジンカバーが開いたままや、防護カウリングが取り外された状態でエンジンを始動した場合、可動部や高温部品により引き起こされるケガの危険性について認識すること。

・ガバナー設定を変更しないこと。エンジン過回転を避けること。エンジン過回転は、エンジン構成部品の損傷につながります。

・屋内や換気が不十分な場所で、機械を使用しないこと。排気ガスは一酸化炭素 (無色無臭の有毒ガス) を含んでいます。



・何かをひいてしまったり衝突してしまった場合には、運転を中止して点検すること。必要であれば始動する前に修理すること。

・エンジン運転中は調整をしないこと。

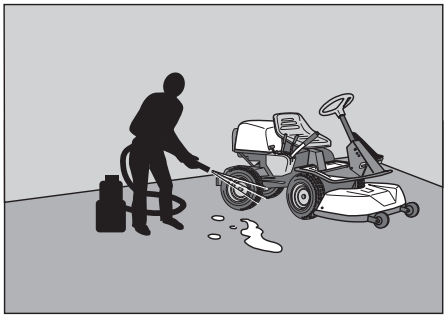
・製造元より供給された、あるいは推奨された装置を取り付けた機械のみが試験を受け認証されています。

・ブレードの刃は鋭いのでケガをする恐れがあります。ブレードを取り扱う際は、ブレードを覆うか保護手袋を着用すること。

・定期的に駐車ブレーキを点検すること。必要に応じて調整とメンテナンスを行うこと。

・より高品質な芝刈りが要求される場合のみ、地形を十分に理解した上でマルチングユニットを使用すること。

・機械に付着した芝、落ち葉、その他瓦礫などを取り除き、火災を予防すること。保管する前に機械を冷却すること。



運搬

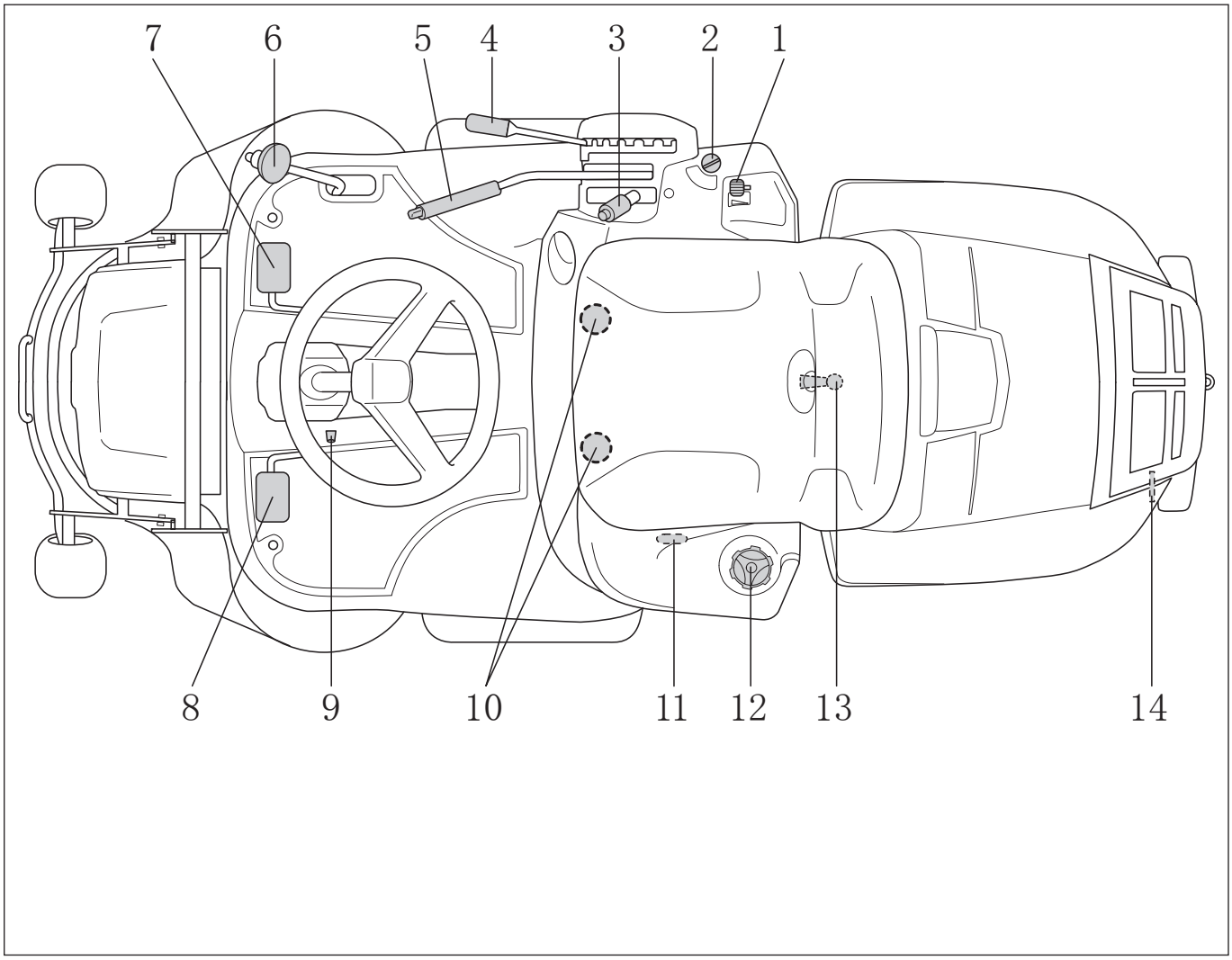
重要情報

輸送中、機械を固定する際に駐車ブレーキだけでは十分ではありません。輸送用車両にしっかりと固定すること。

・本機は重たいので挟まれないように注意すること。本機を車両の荷台やトレーラーに載せたり下ろしたりする際、十分注意すること。

・本機運搬時は、認可されたトレーラーを使用すること。駐車ブレーキを作動し、運搬時はテンションベルト、チェン、ロープなどの固定具でしっかりと本機を固定すること。

・本機を運搬する、あるいは道路を運転する前に、地域の交通規制を確認し遵守すること。



コントロール配置

1 チョークレバー/スロットルレバー

2 イグニッションロック

3 ギヤシフトレバー(Rider 13,13C)

4 刈高調整レバー

5 カッティングユニット昇降レバー

6 後進ペダル(Rider13C,13AWD,15C)

7 前進ペダル(13C,13AWD,15C)
駐車ブレーキ(11,11C)

8 駐車ブレーキ(13C,13AWD,15C)
前進ペダル(11、11C)

9 駐車ブレーキ用ロックボタン
(左側13C,13AWD,15C)(右側11,11C)

10 シート調整

11 フロントアクスル油圧駆動ロック解除レバー(13AWD)

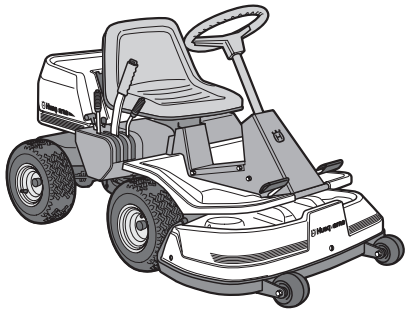
12 燃料キャップ

13 フードロック

14 油圧駆動ロック解除レバー (13C,15C)
リヤアクスル油圧駆動ロック解除レバー (13 AWD)

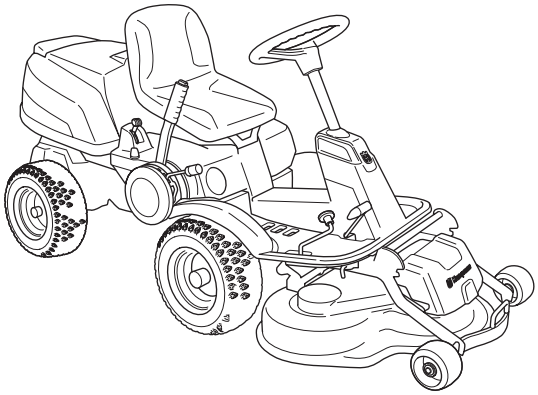
プレゼンテーション

最高品質を誇る本製品をお買い上げ頂き、ありがとうございます。この取扱説明書は、ブリックス＆ストラットン エンジンを備えた5つの型式について記載されています。



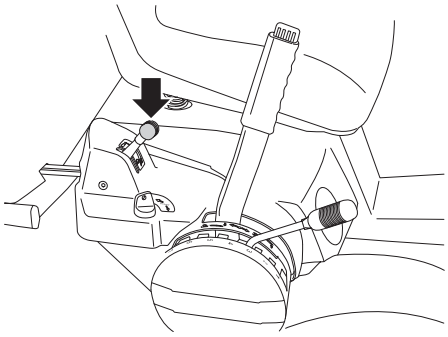
エンジンからのトランスミッションは油圧式ギアボックスとなっており、ペダルによって無段階に速度を制御します。(13C,13AWD,15C)

Rider 13 AWD は、4 輪駆動となります。



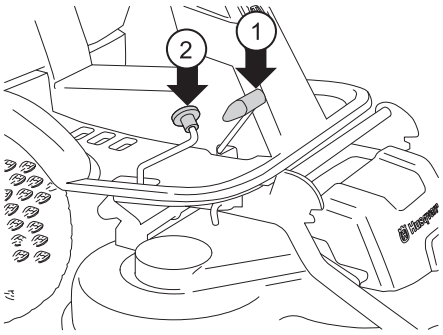
スロットルレバー、チョークレバー

スロットルレバーはエンジン回転を制御し、それによってブレードの回転スピードも制御します。
チョークレバーは冷間始動の場合に使用され、エンジンの燃料混合気を濃くします。
冷間始動の場合、レバーを後方に端の位置まで動かします。



走行ペダル

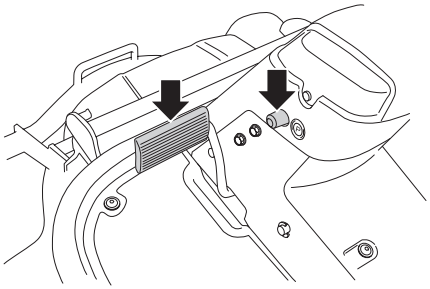
本機の速度は2 つのペダルで無段階に制御されます。ペダル (1) は前進走行用、ペダル (2) は後進走行用です。



警告! 茂みで芝を刈る際、枝がペダルに干渉しないことを確認すること。さもないとコントロールを失う恐れがあります。

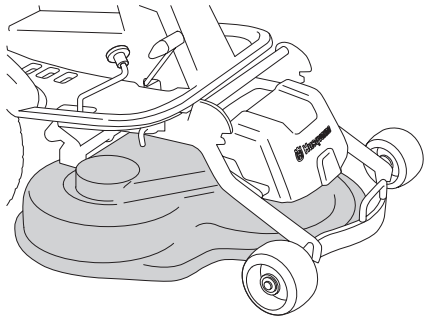
駐車ブレーキ

駐車ブレーキは次の手順で作動させます:



1 ブレーキペダル (1) を一杯に踏み込みます。
2 ステアリングコラム横にある、ロックボタン (2) を押します。
3 ロックボタンを押し続けたまま、駐車ブレーキペダルを放します。
ブレーキペダルが踏み込まれると、駐車ブレーキロックは自動的に解除されます。

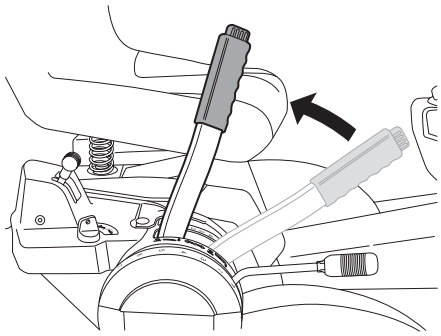
Rider 13 AWD には3つの刈刃があります。



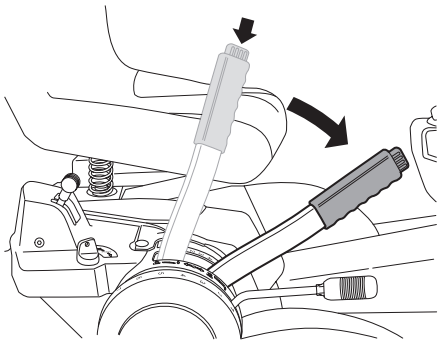
バイオクリッププラグを装着することによるコンビユニットは、芝を何度も切断し細かくすることで肥料として戻します。バイオクリッププラグを取り外すことで、後方排出となります。

カッティングユニット昇降レバー

昇降レバーは、カッティングユニットを輸送または芝刈り位置にセットするために使用されます。
レバーが後方に引かれている場合、カッティングユニットは上昇しブレードは自動的に回転停止します (輸送位置)。



ロックボタンを押しレバーを前方に下ろすと、カッティングユニットは下がりブレードは自動的に回転開始します (芝刈り位置)。

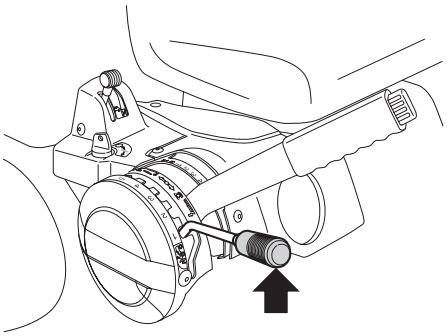


レバーは仮の刈高制限として使用することも出来ます。
(例) 芝面にある小さなマウンド等

刈高調整レバー

刈高調整レバーにより、刈高を7 段階の異なる位置に調整することが出来ます。

Combi (コンビ) ユニット 30 ～ 80 mm (1.2 ～ 3.1)

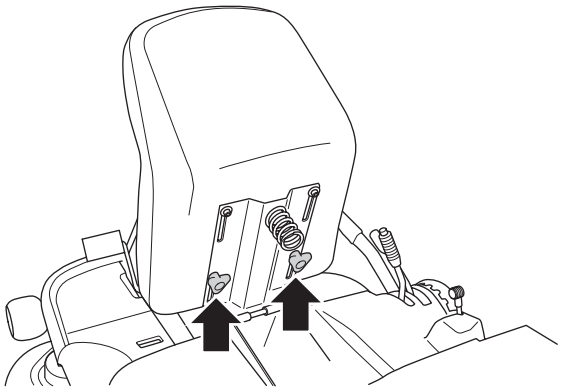


シート

シート前端にジョイント部があり、前方に倒すことが出来ます。

シートは前後方向にも調整出来ます。

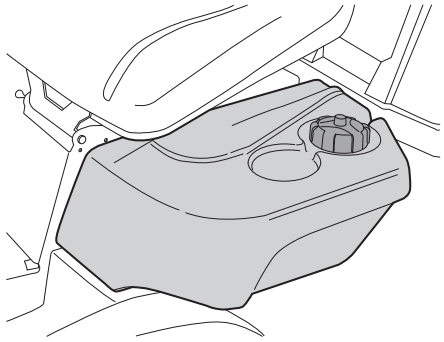
シートは左側の前端にあるレバーを動かし、シートを前方や後方のご希望の位置に合わせます。



給油

オクタン価87以上の無鉛ガソリン (オイル混合ではありません) を使用して下さい。生物分解性アルキレート燃料 (メタノール最大5%、エタノール最大10%、MTBE 最大15%) の使用をお勧めします (MTBE はメチル-t- ブチルエーテルの略です)。

タンク一杯に給油せず、最低2.5 cm (1”)、燃料膨張のためのスペースを設けて下さい。

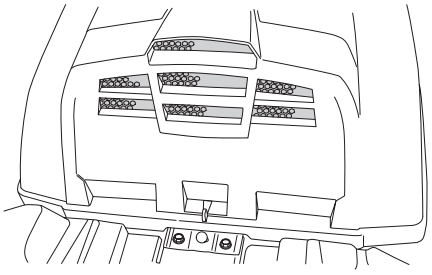


警告! 燃料は非常に可燃性が高いので、取り扱いには十分注意し、屋外でのみ給油すること (“ 安全な取り扱い” 参照)。

重要!
燃料タンク付近を荷物置き場として使用しないこと。

始動前

重要情報
シート後ろのエンジンカバーにあるエアーインテークグリルは、作業者の衣服、落ち葉、草あるいはゴミ等により、決してふさがれないようにすること。エンジンの冷却を損ないます。
エンジンが破損する恐れがあります。



始動前に、取扱説明書の操作と機能に関する記述を熟読し、理解すること。

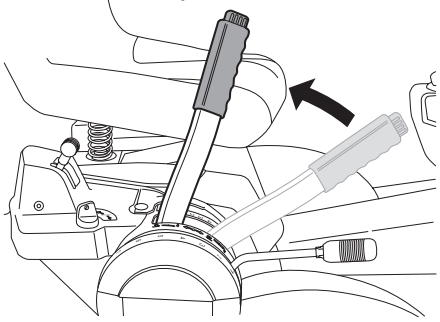
始動前に、メンテナンススケジュールに定められている日常メンテナンスを行うこと。

座席シートの位置を確認して下さい。

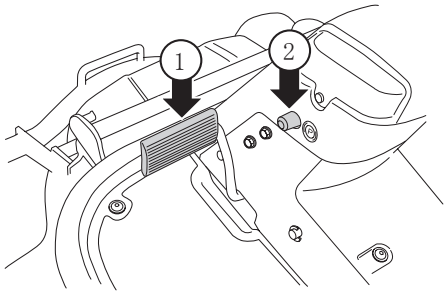
エンジン始動

1. 油圧駆動ロック解除レバーが接続（押し込まれた位置）されていることを確認します。Rider 13 AWD は、フロントアクスル用、リヤアクスル用にそれぞれレバーがあります。

2. カッティングユニット昇降レバーを後方に引きロック位置にし、カッティングユニットを上げ（ 輸送位置）、駐車ブレーキをかけます。



3. スロットルレバーを中間の位置にします。



1 .ブレーキペダル (1) を一杯に踏み込みます。
2 .ステアリングコラム横にある、ロックボタン (2) を押します。
3 .ロックボタンを押し続けたまま、駐車ブレーキペダルを放します。

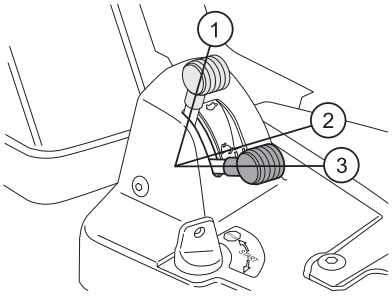
ブレーキペダルが踏み込まれると、駐車ブレーキロックは自動的に解除されます。

Rider13AWDは駐車ブレーキを解除しないと始動しません。

重要情報
ニュートラル・ポジジョンのとき、レバー上のブロックボタンを押さないで下さい。スタートロックされます。

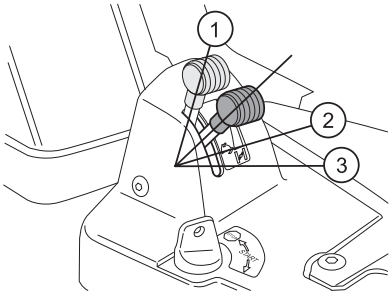
冷間始動の場合

4. チョークレバーを③の位置まで引きます。
エンジン始動がしやすくなります。

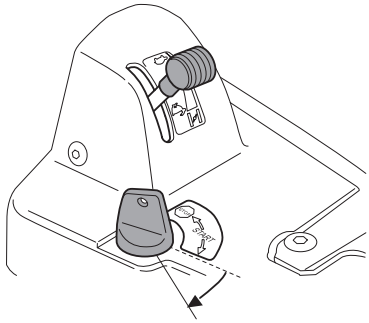


エンジンが温まった場合

5. エンジンが始動したら、チョークレバーをゆっくりと①から②へ押し戻します。

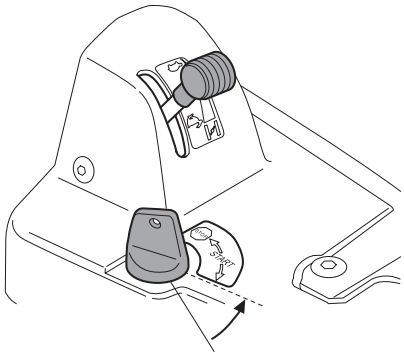


6. イグニッションキー（ スタータースイッチ）を始動（START）の位置まで回します。



重要情報
スターターを1 回に5 秒以上回さないこと。
エンジンがかからない時は、約15 秒待ってから
再びスターターを回すこと。

8. エンジンが始動したら、直ちにイグニッションキー
（スタータースイッチ）を放し、中立の位置まで戻します。



9.エンジンが始動したら、チョークレバーをゆっくりと前方へ押し戻します。激しい負荷運転の前に、3 ～ 5 分ほど適度あるいはハーフスロットルでエンジンを運転させます。

10. スロットルレバーでエンジン回転を合わせます。

警告! 屋内で閉め切った場所、あるいは換気の悪い場所では決してエンジンを運転しないこと。エンジン排気ガスは有毒な一酸化炭素を含みます。

弱いバッテリーでのエンジン始動

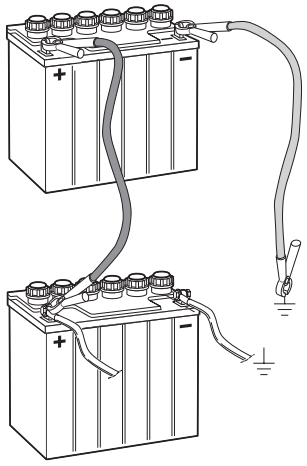
警告! バッテリーは爆発性ガスを発生します。火花、裸火、タバコの火はバッテリーに近づけないこと。バッテリーの近くでは常に防護メガネを着用すること。

バッテリーが弱くエンジンを始動できない場合、充電が必要です。

緊急時の始動として、下記の手順でブースターケーブルを用いることも出来ます:

重要情報 Rider は12V 接地アース方式です。一般的な乗用車も12V 接地アース方式が多いですが、他の乗用車を始動させるために Rider を使用しないこと。

ブースターケーブルの接続



・赤いケーブルの両端を、それぞれのバッテリーのプラス (+) 極に接続します。ケーブル端をシャーシ等に接触 (ショート) しないよう十分に注意すること。

・黒いケーブルの片側の端を、十分に充電されているバッテリーのマイナス (-) 極に接続します。

・黒いケーブルの反対側の端を、燃料タンクやバッテリーから離れたシャーシに接続します (ボディーアース)。

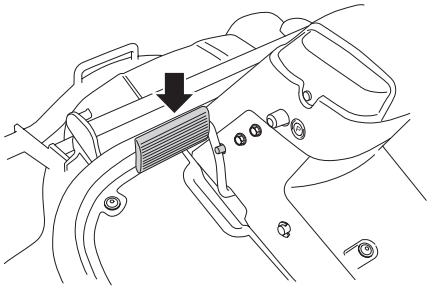
ブースターケーブルの取り外し

・シャーシから黒いケーブルを外した後、十分に充電されたバッテリーから取り外します。

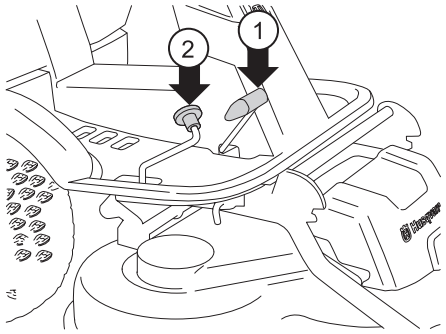
・最後に赤いケーブルを両方のバッテリーから外します。

Riderの運転

1. ブレーキペダルを一杯に踏み込み、ペダルを解放して、駐車ブレーキを解除します。



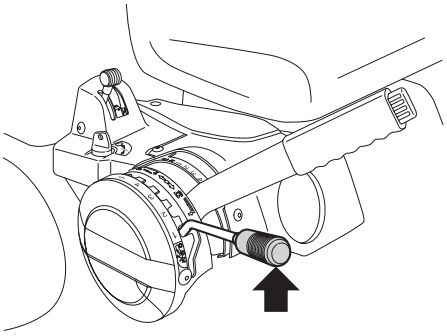
2. 注意しながら、所定の速度になるまで、どちらかのペダルを踏み込みます。ペダル (1) は前進走行、ペダル (2) は後進走行用です。



選択されているギアに関係なく発車することができます。

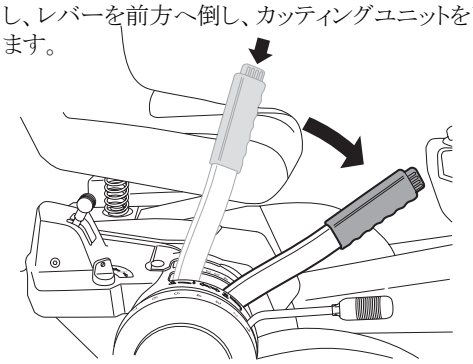
重要！車両が走っている状態で前進ギアの変速を行わないでください。変速時はエンジンが解除されている必要があります。前後進のギアを切り替える前に車両を停止してください。ギアボックスが破損する恐れがあります。変速時は無理に力を入れないでください。ギアが入らないときは一度クラッチペダルを離して再度踏み込んでから、もう一度変速操作を試みてください。

4. 刈高調整レバーで所要の刈高 (1 ～ 7 段階) にセットします。



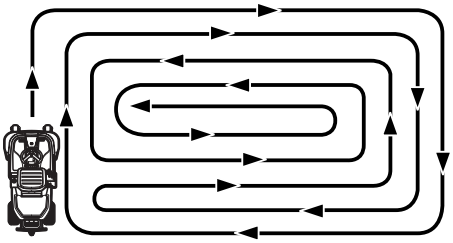
均一な刈高を得るために、フロントタイヤ空気圧が左右共に60 kPa / 8.5 PSI であることが重要です。

5. カッティングユニット昇降レバーのロックボタンを押し、レバーを前方へ倒し、カッティングユニットを下げます。



重要情報
ベルト (クラッチ) 接続時にエンジン回転を低くすることで、ドライブベルトの寿命を延ばすことが出来ます。カッティングユニットを芝刈り位置にした後、フルスロットルにして下さい。

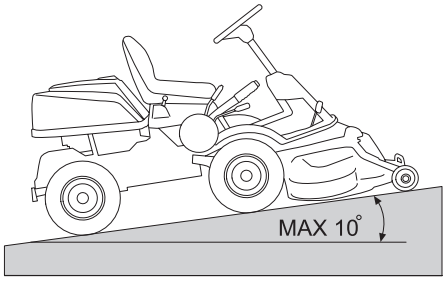
芝刈り作業の要領



警告! ブレードにより飛散する恐れがあるため、芝面にある石やその他異物を取り除くこと。

- 岩や動かせない障害物には予め印を付け、ブレードや本機の衝突を防止して下さい。
- 最初は高い刈高調整からスタートし、徐々に刈高を下げて最終の刈高が得られるように作業します。
- 最良の作業結果を得るためには、エンジン回転数を高くしてブレード回転を高速に保ち、遅い走行スピードで作業します。芝の背丈がそれほど高くなく、密集していない場合は、走行スピードを上げるか、エンジンスピードを下げて作業することが出来ます。
- 芝刈り作業は、頻繁に行うと良い結果が得られます。芝面は均一になり、刈られた草は均一に芝面に飛散されます。頻繁に芝を刈ることにより芝の抵抗が少なくなるので、走行スピードをあまり落とす必要がなく、トータルの作業時間は短縮されます。
- 濡れた芝面の作業は避けること。車輪が芝面に沈むので良い作業結果が得られません。
- 作業終了後は、毎回カッティングデッキ下側を水で洗浄して下さい。カッティングユニットは持ち上げてサービスポジションにして清掃して下さい。
- BioClip (バイオクリップ) 機能を用いて芝を刈る場合は、より頻繁に芝を刈ることが非常に重要です。

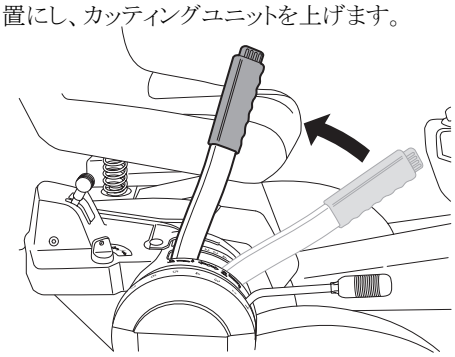
警告! 10° 以上の傾斜面では、本機を使用しないこと。斜面では上り下りでカッティングし、決して横切らないこと。急な方向転換は避けること。

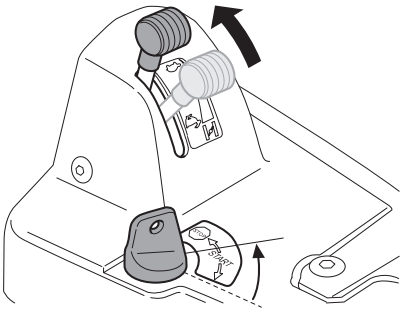


エンジンの停止

激しい芝刈り作業を行った後、エンジンを停止する前にアイドリング運転を1 ～ 2 分間行い、エンジンを冷却して下さい。スパークプラグへのカーボン堆積を防ぐため、長時間のアイドリングは避けて下さい。

1 .カッティングユニット昇降レバーを後方に引きロック位置にし、カッティングユニットを上げます。





2. スロットルレバーを“MIN” 位置に動かします。イグニッションキー (スタータースイッチ) を“STOP” に回します。

3. Rider が停止したら、駐車ブレーキをかけます。

油圧駆動ロック解除レバー

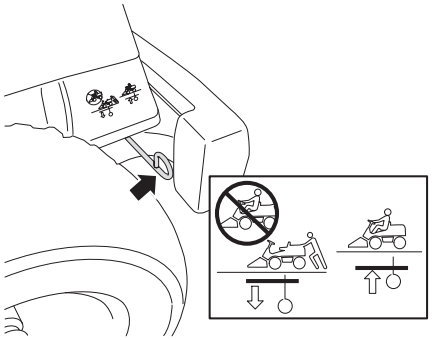
油圧駆動ロック解除レバーは、エンジン停止時に機械を動かす際に引き出します。
レバーは目一杯引き出し、途中の位置では使用しないこと。

Rider13AWD油圧駆動ロック解除レバー

油圧駆動ロック解除レバー、フロントアクスルレバーは左フロントホイール内側にあります。

レバー引き出し時、駆動は解除されます。

レバー押し込み時、駆動は接続されます。

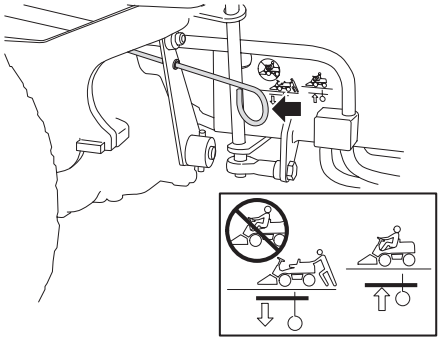


・ クラッチ調節、前進

油圧駆動ロック解除レバー、フロントアクスルレバーは左フロントホイール内側にあります。

レバー引き出し時、駆動は解除されます。

レバー押し込み時、駆動は接続されます。



メンテナンス

メンテナンス・スケジュール

下に記載されたメンテナンス・スケジュール表に従って、本機のメンテナンスを行って下さい。
本取扱説明書に記載されていない項目については、正規販売代理店に依頼して下さい。

メンテナンス	始動前日常点検	最低1 年に1 回	メンテナンス間隔時間			
			25	50	100	200
清掃	X					
エンジンオイル量点検	X					
エンジン冷却エアーインテーク点検	X					
燃料ポンプおよびエアーフィルター点検	X					
ステアリングケーブル点検	X					
ブレーキ点検	X					
バッテリー点検	X					
安全装置点検	X					
ナットおよびスクリュー点検	O					
燃料およびオイル漏れ点検	O					
サイレンサー周囲の清掃	O					
エンジンオイル交換 1)			X	X		
エアーフィルターのプレフィルター清掃 2)			X			
カッティングデッキ点検			X			
タイヤ空気圧点検 60 kPa/8.5 PSI			X			
ベルトアジャスタ給油 1)			X			
ジョイントおよびシャフトへの給油 1)			X			
ブレーキ調整(Rider 11,Rider11C)			X			
V ベルト点検			O			
トランスミッション冷却フィン点検 (Rider 13 C, Rider 13 AWD and Rider 15 C)			O			
トランスミッションオイル量点検 (Rider 13 C ,Rider 13 AWD , Rider 15 C)	X					
チョークワイヤー点検および調整(Rider 13C, Rider 15C)				X		
チョークワイヤー点検および調整(Rider 13 AWD)				X		
スロットルワイヤー点検および調整				X		
エンジンおよびトランスミッション冷却フィン清掃 2)				O		
エアーフィルターのプレフィルター、ペーパーフィルター交換 2, 5)					X	
燃料フィルター交換					X	
スパークプラグ交換					X	
エンジンバルブクリアランス点検 6)					O	
ギアボックス/ 油圧系統オイル 6,7) の交換必要性点検		O				O

1) 本機を毎日使用する場合、1 週間に2 回給油すること。2) ホコリの多い場所では、頻繁にメンテナンスと交換が必要。3) 初回交換は8 時間使用後。激しい負荷をかける運転や気温が高い環境下での使用では50 時間毎に交換。4) オイルフィルターは200 時間毎に交換。5) ペーパーフィルターは1 年に1 回あるいは200 時間毎に交換。6) 正規販売代理店にて実施。7) Rider 15V2 AWD のみ初回交換は8 時間使用後。

X = 本取扱説明書に記載あり
O = 本取扱説明書に記載なし

警告! エンジンやカッティングユニットのサービスを行う際には以下の事項を守ること:

エンジンが停止していること。
駐車ブレーキが作動していること。
イグニッションキーが抜いてあること。
カッティングユニットが接続されていないこと
(輸送位置にあること)。
スパークプラグからイグニッションケーブルが
抜かれていること。

清掃

使用後は本機を清掃して下さい。刈った芝が乾燥する前の方が、容易に洗い流せます。

油を含んだホコリは脱脂材で取り除くことが出来ます。うっすらとスプレーして下さい。

普通の水圧で洗浄します。

電気部品やベアリングに、水のノズルを向けないこと。

エンジンや排気システム等の高温表面を洗浄しないこと。

洗浄清掃後、エンジンを始動し、モアを運転して、残った水を吹き飛ばすことをお勧めします。

清掃後、必要であれば本機を給油します。ベアリングが脱脂材や水のジェットにさらされた場合には、追加給油して下さい。

重要乗用
高圧洗浄器やスチームクリーナーの使用は避けること。

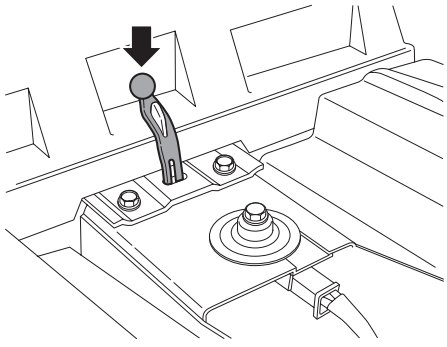
水がベアリングや電気配線に入り込むことは故障原因となります。錆が発生し、運転時の問題を引き起こす場合があります。洗浄添加剤が損傷を悪化させる場合があります。

本機カバーの取り外し

エンジンフード

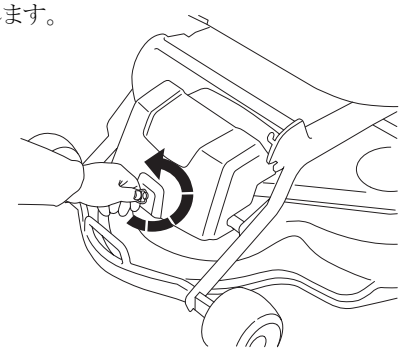
エンジンフードを開けることで、エンジンのサービスを行いやすくなります。

シートを前方に倒し、シート下のゴム製ストラップを緩め、カバーを後側に倒します。



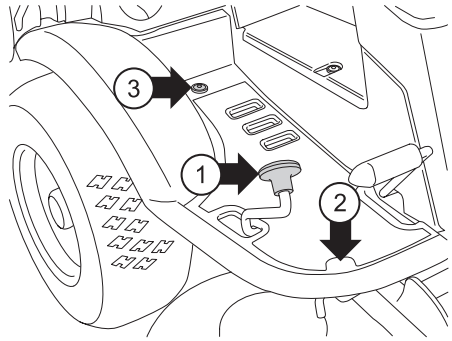
フロントカバー

フロントカバーのクリップを解除し、フェンダーを取り外します。



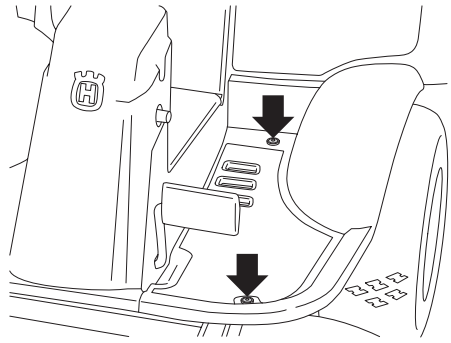
右側フェンダー

後進ペダル (1)、スクリュー (2 & 3) を外してから、カバーを取り外します(Rider 13 C, Rider 13 AWD and Rider 15 C)



左側フェンダー

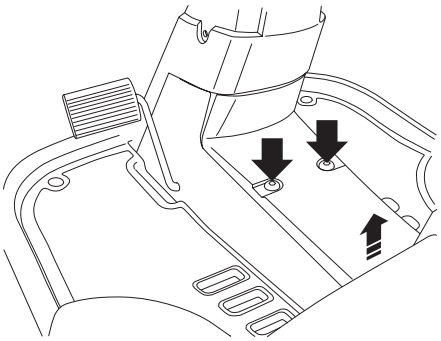
カバーを固定しているスクリュー (2) を外し、カバーを取り外します。



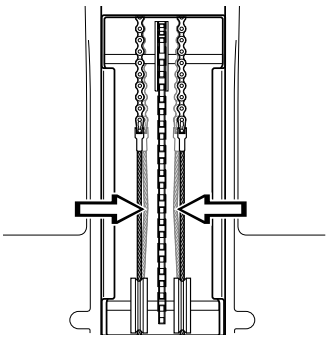
ステアリングワイヤーの点検と調整

ステアリングはワイヤーによりコントロールされます。
ワイヤーは時間の経過と共に緩み、ステアリングの調整が変化してきます。
次の手順でステアリングの点検と調整を行います:

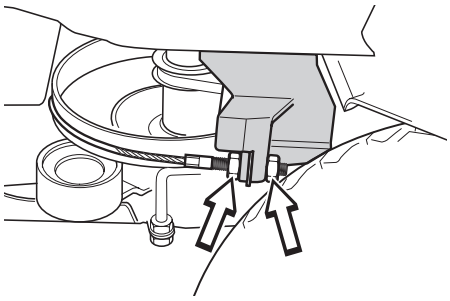
1.スクリュー2 本を緩め、フレームプレート後側を持ち上げ、フレームプレートを取り外します。



2. 2本のステアリングワイヤーをイラストのように矢印方向の内側に押して張力を確認します。不要な力を加えずにワイヤーを一緒に押して、半分の距離になるのが適正な張力です。



3.必要であれば、後方にある各ステアリングカラーの調整ナットを締め込み、ワイヤーは調整出来ます。ケーブルを締め過ぎないこと。



例えばケーブルをレンチで押さえ、ねじれないようにします。

片側のワイヤーのみを調整する場合は、ステアリングの中間位置が影響を受けます。

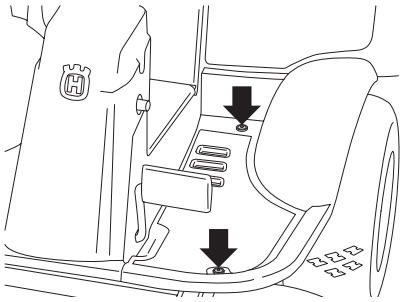
手順2 に記載されているように、調整後はワイヤー張力を確認すること。

警告! 調整が不十分な駐車ブレーキは、ブレーキ性能を劣らせます。

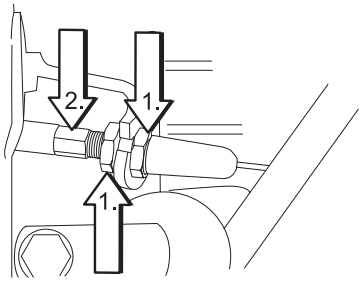
Rider 13 AWD 駐車ブレーキ調整

フロントとリヤの油圧駆動ロックを解除し本機を傾斜面に置き、駐車ブレーキが正常に調整されているか確認します。駐車ブレーキをかけます。本機が停止しない場合、駐車ブレーキを次のように調整します。

1.左側フェンダーを取り外します。



1.ロックナット (1) を緩めます。



2.調整スクリュー (2) を用いて、ケーブルの遊びが適正になるようにケーブルを張ります。

3.ロックナット (1) を締めます。

4.調整後、再び駐車ブレーキを点検します。

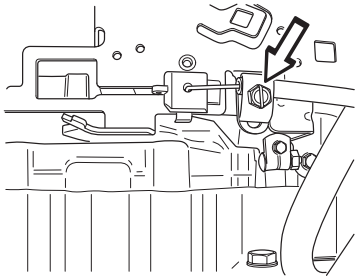
5.左側フェンダーを取り付けます。

警告! 調整が不十分な駐車ブレーキは、ブレーキ性能を劣らせます。

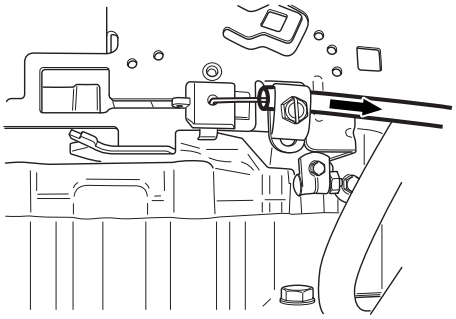
チョークワイヤーの点検と調子

マフラーから黒煙が出る、または始動が困難な場合、チョークワイヤー (上側のケーブル) の調整不良が考えられます。
この疑いがある場合、正規販売代理店にお尋ね下さい。
チョーク調整が必要な場合、次の手順で行います:

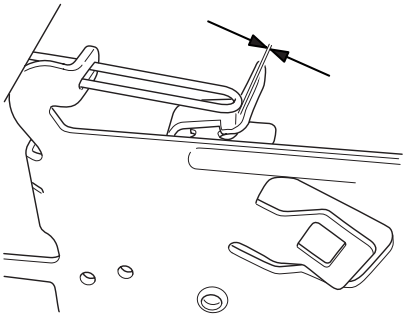
1.アウターワイヤーの固定スクリューを緩めて、チョークレバーを最大位置に合わせます。



2.イラストのように、スロットルワイヤーが上側のレバーに取り付いていることを確認します。



3.チョークワイヤーのアウターを可能な限り右側に押して、固定スクリューを締め込みます。



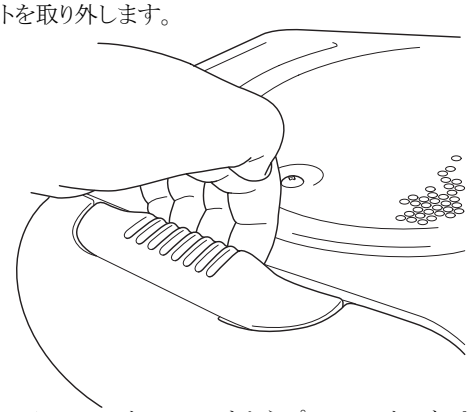
エアーフィルターの交換

エンジンの出力が低下、あるいは滑らかに回転しない場合、エアーフィルターの詰まりが考えられます。そのため、エアーフィルターは定期的に交換することが重要です (本取扱説明書“ メンテナンス・スケジュール” 参照)。

次の手順でエアーフィルターを交換します:

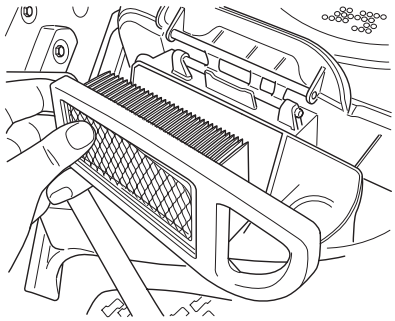
1.エンジンカバーを開きます

2.指でスナップロックを押して、エアーフィルターユニットを取り外します。



3. エアーフィルターユニットからプレフィルターとペーパーフィルターを取り外します。

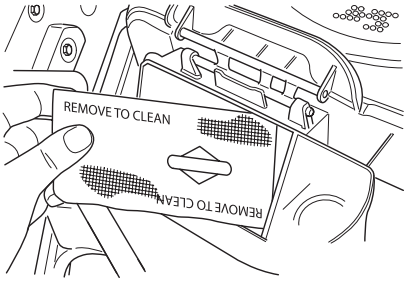
4.水と中性洗剤でプレフィルターを洗浄します。



5. プレフィルターを乾燥させます。

重要情報
エアーフィルター未装着でエンジンを運転しないこと。
フィルターにオイルを塗布しないこと。フィルターは乾燥した状態で装着すること。

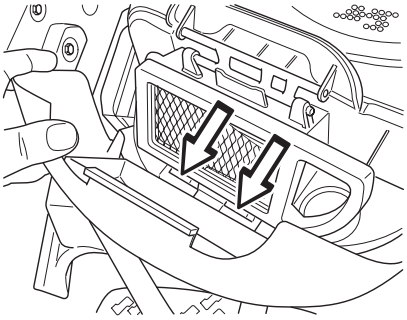
6. ファンハウジングから注意してプレフィルタを取り出します。



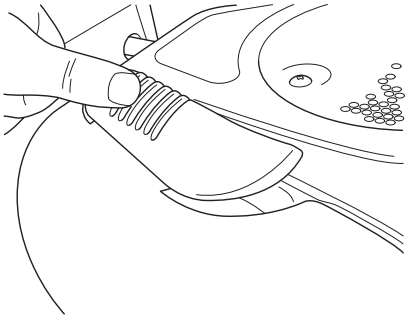
7. キャブレター内にゴミが入らないように気をつけながらファンハウジングを清掃します。

8. ファンハウジングに新しいプレフィルタとエアフィルタカートリッジを挿入します。

9. カバーのタブとハウジングの溝を合わせてエアクリーナーカバーに装着し、内側へ押し込んでカバーを閉めます。

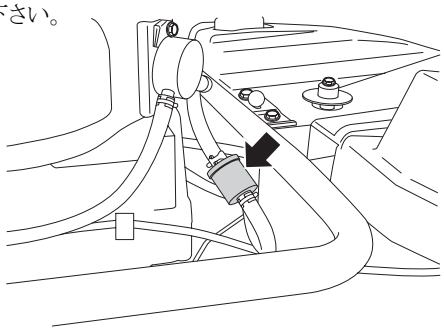


10. ハンドルを内側へ引きます。ハンドルをエアフィルターカバーに装着し、内側へ押し込んでカバーを閉めます。



燃料フィルターの交換

燃料フィルターは100 時間運転毎 (毎シーズン) に交換するか、汚れたり詰まったりしている場合はより頻繁に交換して下さい。

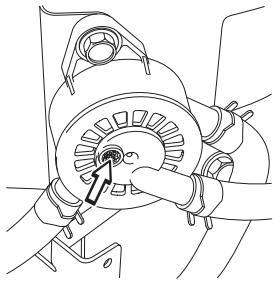


下記の手順で交換して下さい:

1. エンジンフードを開きます。
2. フィルターからホースクリップを外します。平プライヤーを使用します。
3. ホース端からフィルターを取り外します。
4. 新しいフィルターをホース端から取り付けます。必要であれば、石鹸液をホース端に塗布すると簡単に取り付けることが出来ます。
5. ホースクリップを取り付けて、締め付けます。

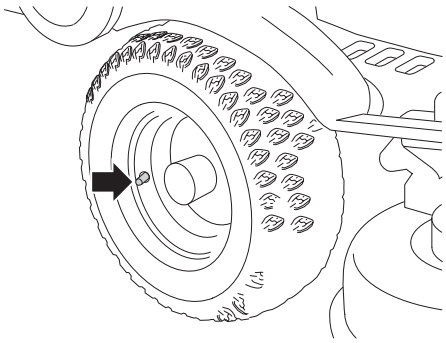
燃料ポンプのエアフィルタ点検

燃料ポンプのエアフィルタが詰まってないか定期的に点検します。必要に応じてブラシなどで清掃します。



タイヤ空気圧の点検

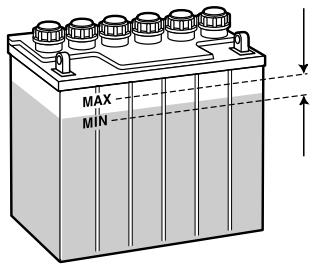
全てのタイヤ空気圧は60 kPa (0.6 kp/cm2/8.5 PSI) です。リヤタイヤは40 kPa (0.4 kp/cm2/5.6 PSI) に減圧することが出来ます。上限の空気圧は100 kPa (1.0 kp/cm2/14 PSI) です。



重要情報
フロントタイヤの空気圧が左右で異なっていると、良好な芝刈り結果を得ることが出来ません。

バッテリー液レベルの点検

バッテリー液レベルがマークの間にあることを確認します。
バッテリー液補充時は、蒸留水のみを使用して下さい。



蒸留水を線いっぱいまで満たして下さい。

警告! バッテリー液に触れてしまった場合

外的: しっかりと水で洗浄すること。

内的: 大量の水あるいは牛乳を飲むこと。
ただちに医者に診断してもらうこと。

目: しっかりと水で洗浄すること。
ただちに医者に診断してもらうこと。

バッテリーは爆発しやすいガスを発生します。火花、炎、タバコは絶対にバッテリーに近づけないこと。

イグニッションシステム

エンジンは電子イグニッションシステムを装備しています。スパークプラグのみ、メンテナンスが必要です。

推奨スパークプラグは、“ テクニカルデータ” を参照して下さい。

重要情報
間違ったスパークプラグ型式の装着はエンジンを傷める恐れがあります。

スパークプラグの交換

1. スパークプラグケーブルを抜き、スパークプラグ周辺を清掃します。

2 .5/8” (16 mm) のスパークプラグソケットレンチでスパークプラグを取り外します。

3.スパークプラグを点検します。電極が溶けている場合、あるいは絶縁部にヒビや損傷がある場合は、スパークプラグを交換します。スパークプラグが再使用できる場合は、ワイヤーブラシで清掃します。

4.シックネスゲージで電極隙間を測定します。電極隙間は0.75 mm/0.030” です。必要に応じて電極を曲げて調整します。

5.スパークプラグを再び取り付け、ネジ部を傷めないように手で締め付けます。

重要情報
スパークプラグの締め付け不足は、オーバーヒートやエンジン損傷を引き起こす恐れがあります。また、スパークプラグの締め付け過ぎは、シリンダーヘッドのネジ部を傷める恐れがあります。

6.スパークプラグの座が接したら、スパークプラグレンチで締め付けます。ワッシャーが圧縮されるようにスパークプラグを締め付けます。使用されたスパークプラグは、座が接してから1/8 回転締め付けます。新しいスパークプラグは座が接してから1/4 回転締め付けます。

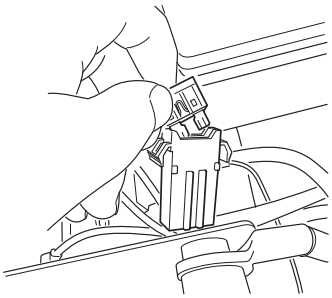
7.スパークプラグケーブルを再取り付けします。

重要情報
スパークプラグまたはイグニッションケーブルを取り外す場合、エンジンをかけないでください。

メインヒューズ

メインヒューズは、バッテリー前のバッテリーケースカバー下にある取り外し可能なホルダー部にあります。

タイプ: 平ヒューズ、15 A



交換時には、異なるタイプのヒューズを使用しないこと。

茶色のヒューズはコネクター焼けを表します。交換時はホルダーからヒューズを引き出して下さい。

ヒューズは電気システムを保護するためにあります。交換後、短期間でヒューズが切れてしまう場合、回路がショートしている可能性がありますので、運転する前に修理を行う必要があります。

安全装置の点検

本機には、次の場合に始動や運転されないように、安全装置が備えられています。
カッティングユニットが上がった位置で、ハイドロスタットペダル (前進、後進ペダル) が中立位置の時にのみ、
エンジンを始動することが出来ます。

運転者はシートに座る必要はありません。

条件が満たされていないにも関わらずエンジンが始動してしまうことがないか、毎日安全装置を点検して下さい。
条件を変え、再び試して下さい。

カッティングユニットが下がった状態、あるいはハイドロスタットペダルが中立ではない状態で、シートから仮に離れた際に、
エンジンが停止するか点検します。

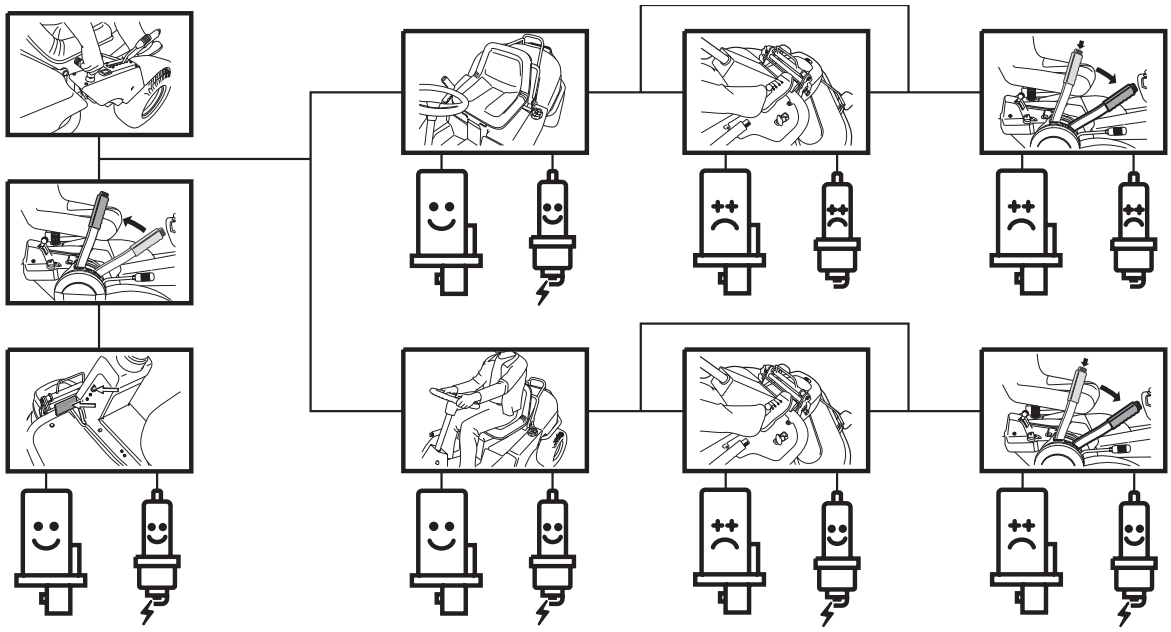
スターター

イグニッションシステム

作動

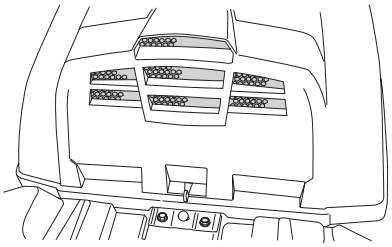
不動

Rider 13 AWD

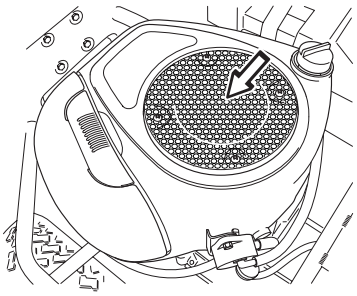


エンジン冷却エアーインテークの点検

シート裏のエアーインテークグリルを清掃します。



エンジンフードを開きます。
冷却インテークに葉や草、汚れが詰まっていないか点検します。



エンジンフード内側のエアーダクトを点検し、冷却エアーインテークに対して擦れていないことを確認します。

冷却インテークが詰まっていると、冷却効果に悪影響を与え、エンジンが損傷する恐れがあります。

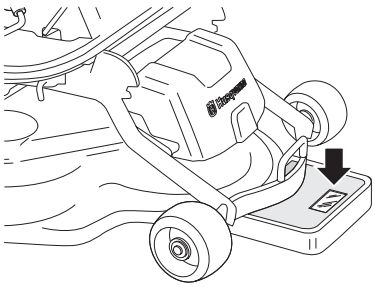
> ⚠ 警告! 冷却エアーインテークはエンジン運転中に回転します。指先に注意すること。

カッティングユニット接地圧の点検と調整

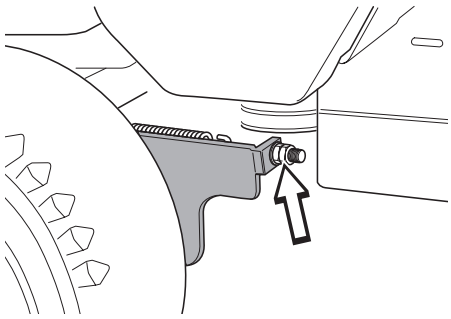
最良の芝刈り結果を得るため、カッティングユニットは地面に対する圧力が強過ぎないように調整が必要です。
圧力はRider 両側にあるスクリューとスプリングで調整します。

1.タイヤの空気圧が60 kPa/0.6 kp/cm2/8.5 PSI であることを確認します。

2.カッティングユニットのフレーム (前端) 下に体重計を入れて計測します。必要であれば、ブロックをフレームと体重計の間に入れてサポートローラーに重さがかからないようにします。



3.両前輪の後ろにある調整スクリューを締め込み接地圧を弱く、スクリューを緩めて接地圧を強くし調整します。
接地圧は12 ～ 15 kg (26.5 ～ 33 lb) にします。



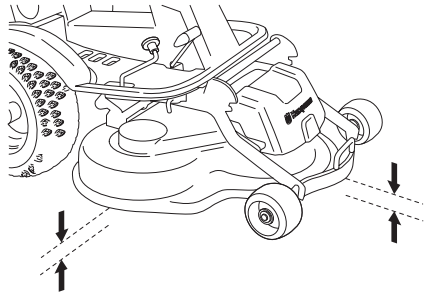
カッティングユニット平行度の点検

次の手順でカッティングユニット平行度を点検します:

1.タイヤ空気圧が60 kPa/0.6 kp/cm²/8.5 PSI であることを確認します。

2.本機を平らな地面に置きます

3.カッティングデッキ昇降レバーを芝刈り位置にします。
地面とカッティングユニットカバーの前端、後端との距離を測定します。カッティングユニットは後端の方が前端よりも2 ～ 4 mm (1/8") 高いことを確認します。

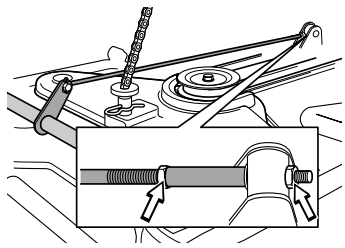


カッティングユニット平行度の調整

1.タイヤの空気圧が60 kPa/0.6 kp/cm2/8.5 PSI であることを確認します。

2.フロントカバーと右側フェンダーを外します

3.左側ストラットの2 つのナットを緩めます。



4.カバー後端を上げるには、スクリューを回してステーを延ばします。

カバー後端を下げるには、スクリューを回してステーを縮めます。

5.調整後、ナットを締め付けます。

6.調整終了後、再度ユニットの平行度を確認します。

7.右側フェンダーとフロントフードを取り付けます。

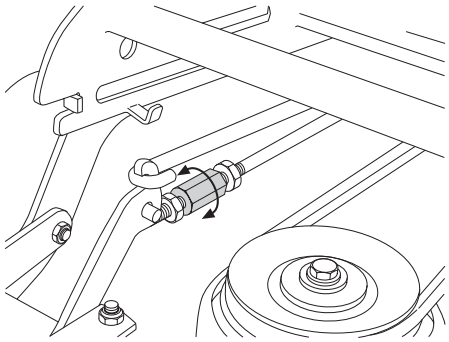
カッティングユニット平行度の調整

1. タイヤ空気圧が60 kPa/0.6 kp/cm2/8.5 PSI であることを確認します。

2. 本機を平らな地面に置きます。

3. 左側ストラットのナットを緩めます。

4. カバーの後縁をあげる際はステーを伸ばします。
カバーの後縁を下げるときはステーを縮めます。



5. 調節が終わったらナットを締めます。

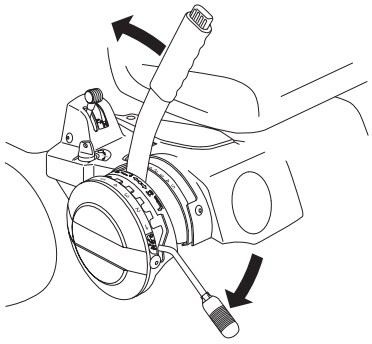
6. 調整が終わったらユニットの水平度を再確認します。

カッティングユニットのサービスポジション

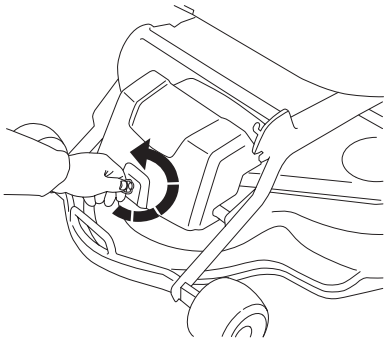
容易に清掃、修理、メンテナンスが出来るよう、カッティングユニットはサービスポジションにセットすることが出来ます。サービスポジションとは、カッティングユニットを上げ、垂直に固定する位置のことです。

サービスポジションにする方法

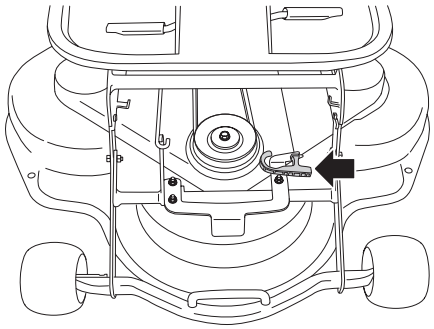
本機を平らな地面に置きます。駐車ブレーキをかけます。カッティングユニットを最も低い刈高位置にした後、カッティングユニットを下げます。



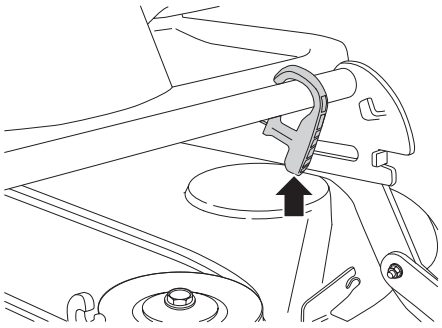
2. ピンを取り外し、フロントカバーを外します。



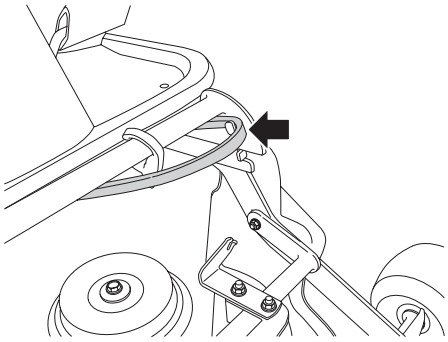
3. ドライブベルトにテンションをかけるプーリーのスプリングを外します。



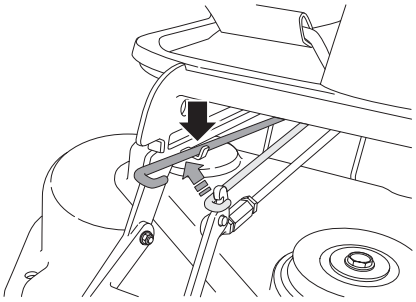
4. フレームのアーチにハンドルを配置します。



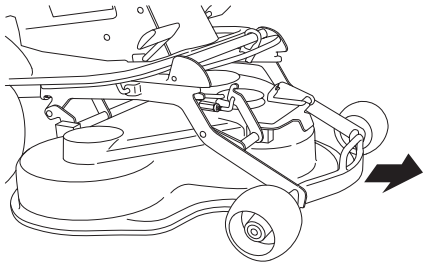
5. ドライブベルトを上げて外し、荷重を軽減するフックにかけます。



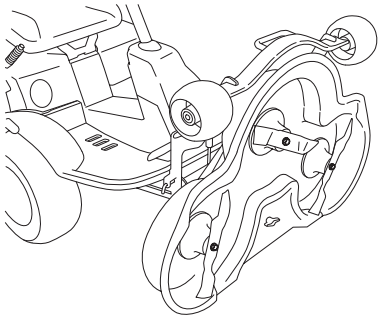
6. 刈高ステーを緩めホルダに置きます。



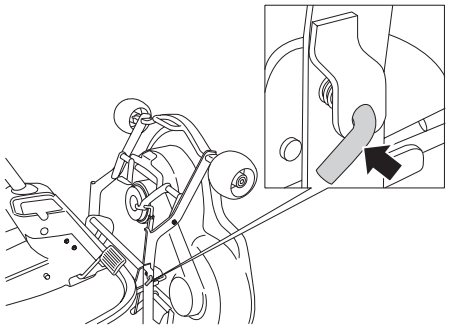
7. ユニットの前縁を持ち止るまで前に引きます。



8. 停止位置でクリック音が聞こえるまでユニットを持ち上げます。

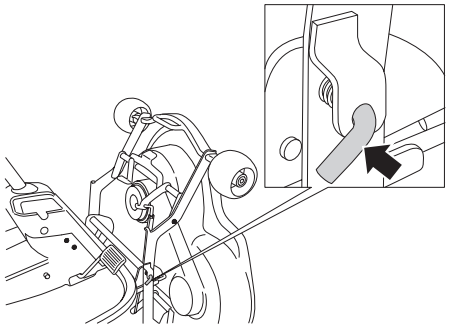


9. ユニットは自動的に垂直位置にロックします。

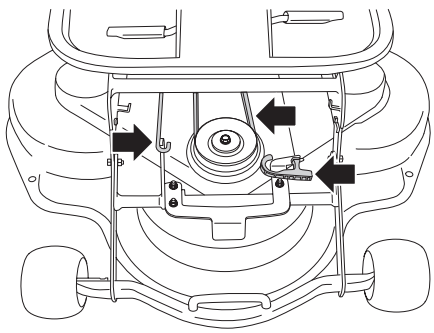


サービスポジションの解除

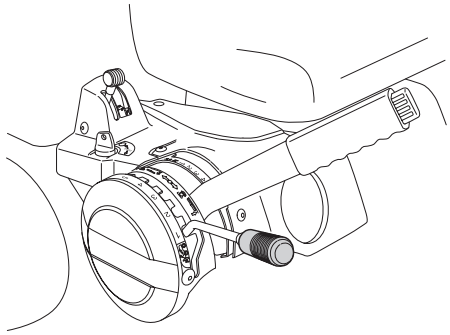
1. ユニットの前縁を持ちロックを緩めます。
   ユニットを倒し押し込みます。



2. 刈刃ステーとベルトを元に戻します。ベルトアジャスターで
   ベルトを張ります。



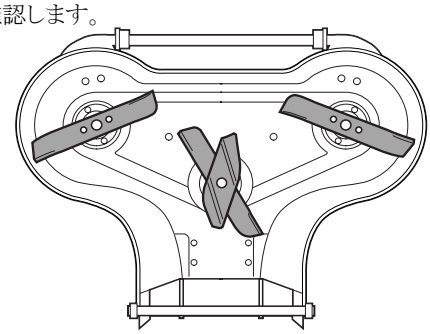
3. フロントカバーを装着します。
4. 刈高調節レバーを1から7の位置のどれかに設定します。

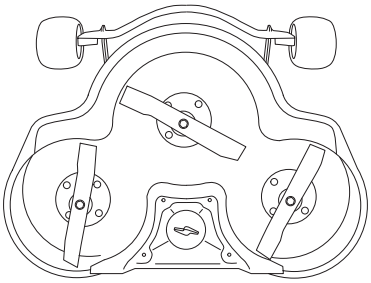


ブレードの点検

最良の芝刈り結果を得るためには、ブレードに損傷がなく、良く研磨されていることが重要です。

ブレード取り付けボルトがしっかりと締結されていることを確認します。





重要情報
ブレードの交換や研磨は、正規販売店にご依頼することを推奨いたします。

研磨後、ブレードのバランスを取って下さい。

異物などに接触し破損したブレードは交換して下さい。ブレードを修理するか、再研磨するか、廃棄するかの判断は正規販売店にご確認下さい。

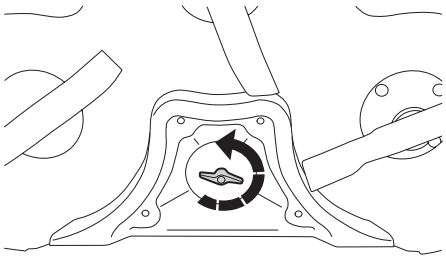
警告！不十分な修理やそのほかの理由で刈刃にひびが入っている場合は使用中に破損する恐れがあります。刈刃のバランスが取れていない場合は破損の可能性が高くなります。

バイオクリッププラグの取り外し

Combi（コンビ）ユニットでBioClip（バイオクリップ）機能から後方排出に変更する場合、ユニット下に3 本のスクリューで固定されている BioClip プラグを取り外します。

1.“サービスポジション” を参照し、ユニットをサービスポジションにします。

2 .BioClip を固定している3 本のスクリューを外し、プラグを取り外します。



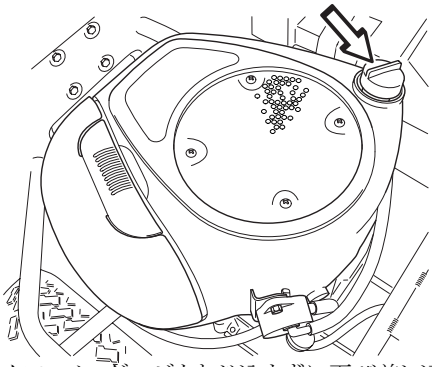
3.ユニットを通常位置にします（BioClip プラグ装着は逆順）。

エンジンオイル量の点検

エンジンを停止しRider を水平にして、エンジンのオイル量を点検します。

エンジンフードを開きます。

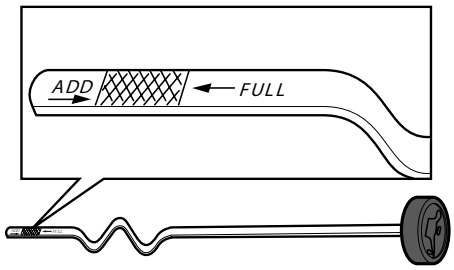
オイルレベルゲージを緩めて抜き、オイルを拭き取ります。



オイルレベルゲージをねじ込まずに再び差し込みます。

オイルレベルゲージを再び抜き取り、オイル量を点検します。

オイル量がオイルレベルゲージのマークの間にあることを確認します。オイル量がADD マークまでしかない場合、オイルレベルゲージのFULL マークなるまでオイルを補給します。



オイルはオイルレベルゲージが入っている穴から補給します。オイルはゆっくりと補給します。

エンジンを始動する前に、レベルゲージを正しくねじ込みます。エンジンを始動して30 秒程度アイドリング運転させます。エンジンを停止します。30 秒待ち、オイル量を点検します。必要であれば、オイルをオイルレベルゲージのFULL マークまで補給します。

異なるタイプのオイルを混ぜないこと。

5W-20、10W-30、10W-40 オイルを使用する際、エンジンのオイル消費が増加するので注意すること。これらのオイルを使用する場合、頻繁にオイル量を点検すること。

エンジンオイルの交換

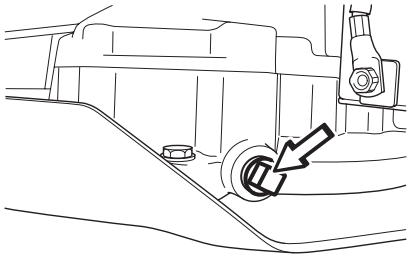
エンジンオイルは初回5 時間運転後に交換して下さい。その後、50時間の運転毎に交換して下さい。

高負荷あるいは高温下での運転を行う場合、25時間毎に交換すること。

警告! エンジン停止直後にドレンから抜かれたエンジンオイルは非常に高温となります。若干エンジンを冷却させること。

1.エンジンの左側下オイルドレンプラグ下に容器を置きます。

2.オイルレベルゲージを取り外します。エンジン左側からドレンプラグを取り外します。



3. オイルを容器に排出します。

4. ドレンプラグを取り付け、締め付けます。

5. オイルレベルゲージのFULL マークまで給油します。オイルはオイルレベルゲージ用の穴から給油します。“ エンジンオイルレベルの点検” を参照して下さい。オイルフィルターを交換しない場合は1.5 L (1.6 USqt)、オイルフィルターを交換する場合は1.7 L (1.8 USqt) 必要です。

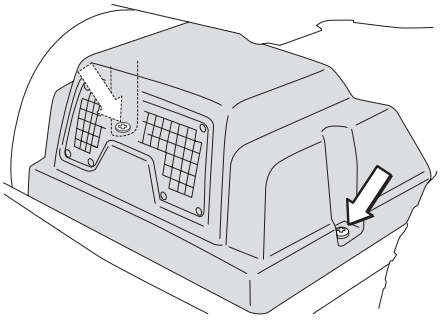
6. 暖機運転を行い、ドレンプラグからオイル漏れがないことを確認します。

重要情報
使用済みエンジンオイルは人体に有害ですので、決して地面や自然界に廃棄しないこと; ワークショップや廃棄処理業者に依頼すること。
肌への接触を避けること; こぼれた場合は石鹸をつけて水洗いすること。

給 油

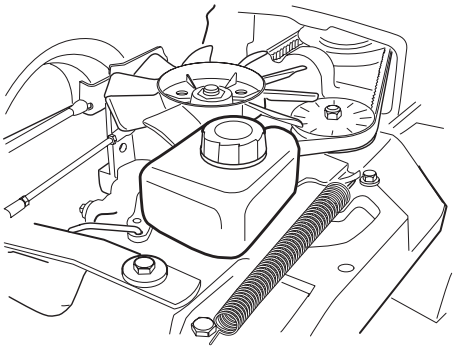
トランスミッションオイル量の点検

1. トランスミッションカバーを取り外します。2 本のスクリュー (片側に各1 本) を緩めトランスミッションカバーを外します。



トランスミッションオイルタンクにオイルが入っていることを確認します。

2. 必要な場合、SAE 10W/40 (SF.CC 規格) エンジンオイルを補給します。



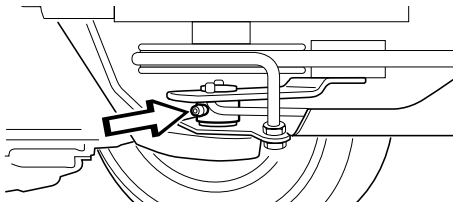
オイルとフィルターは正規販売代理店にて交換して下さい。

トランスミッションは清潔にしておく必要があります。本機を使用する前にトランスミッション系統のエア抜きを行って下さい。

ベルト調整部への給油

ベルト調整部は定期的に、品質の良いモリブデン配合グリス* で給油する必要があります。

グリスガンを用いて、エンジンの下側ベルトプーリー右側にある1 つのニップルから、グリスが押し出されるまで給油します。



本機を毎日ご使用になる場合には、1 週間に2 回給油して下さい。

一般的な給油

全てのジョイントとベアリングは、製造工程においてモリブデン配合グリスが給油されています。同じタイプのグリス* を使用し続けて下さい。ステアリングとコントロールワイヤー類はエンジンオイルを給油します。

定期的に給油して下さい。毎日ご使用する場合には1 週間に2 回給油して下さい。

*有名メーカー (石油化学製品会社など) 製グリスは一般的に品質が安定しています。最も重要な特性は、グリスが防錆性を備えているかということになります。

トラブルシューティング･スケジュール

問題点	原因
エンジンが始動しない	燃料タンクに燃料が入っていない スパークプラグ不良 スパークプラグの接続およびケーブル不良 キャブレターまたは燃料系統の汚れ セルモーターが始動しない
セルモーターが始動しない	バッテリー上がり (低電圧) ケーブルとバッテリー間の接続不良 カッティングユニット昇降レバー位置の誤り メインヒューズ断線 このヒューズはバッテリーの前、バッテリーカバーの下 イグニッションの固定不良 走行ペダルが中立位置にない
エンジン回転が不安定である	スパークプラグ不良 キャブレター調整不良 エアーフィルターの詰まり 燃料タンク通気バルブの詰まり イグニッションの取り付け不良 キャブレターまたは燃料系統の汚れ チョークレバーを引いている、あるいはスロットルケーブル調整不良
エンジンの出力不足	エアーフィルターの詰まり スパークプラグ不良 キャブレターまたは燃料系統の汚れ キャブレター調整不良 チョークレバーを引いている、あるいはスロットルケーブル調整不良
エンジンのオーバーヒート	エンジン過負荷 エアーインテークまたは冷却フランジの詰まり ファンの損傷 エンジンオイル不足 イグニッション不良 スパークプラグ不良
バッテリーが充電されない	バッテリー内部のセル不良 バッテリーターミナルケーブルの接続不良
機械の振動	ブレード取り付けの緩み エンジン取り付け部の緩み ブレードの損傷やブレード研磨後のバランス不良
芝刈面の不均一	ブレードの刃先不良 カッティングユニットの調整不良 長い、あるいは濡れた芝草 カッティングデッキ内側への草やゴミの堆積 左右タイヤ空気圧の不一致 速すぎる走行 駆動ベルトの滑り

保 管

冬季の保管

芝刈作業のシーズン終了後または30 日間以上機械を使用しない場合は、芝刈機を格納して下さい。燃料を長期 (30 日以上) そのままタンクに入れっ放しにしておくと、キャブレターが詰まるなどのエンジン機能に悪影響を与えます。

燃料スタビライザー (スタビル) は、保管時の燃料が粘り気を帯びてしまうための対策として使用できます。アルキレート燃料 (アスペン) が使用されている場合、この燃料は安定性があるためスタビライザーは必要ありません。しかし、繊細なゴム部品が硬化するため、通常の燃料とアルキレート燃料を切り換えるのは避けるべきです。タンクの燃料あるいは保管容器にスタビライザーを入れます。常にスタビライザー製造会社が指示している混合比を使用して下さい。スタビライザーを入れた後、最低でもエンジンを10 分間運転し、スタビライザーがキャブレターに到達するようにします。スタビライザー使用時は、絶対に燃料タンクとキャブレターを空にしないよう注意します。

警告! タンクに燃料が入った状態でエンジンを屋内に保管したり、燃料の蒸気が裸火、火花、あるいはボイラー、給湯タンク、ドライヤー等のパイロット灯に触れる恐れがある換気の不十分な場所で保管しないこと。十分に注意して燃料を取り扱うこと。非常に可燃性が高く、不注意により重大なケガや資産損失につながる恐れがあります。燃料は屋外で専用の容器に排出し、炎から遠ざけること。清掃目的で燃料を使用しないこと。脱脂材や温水を代わりに使用すること。

芝刈機の保管手順は次の通りです:

1. 機械を十分に清掃します。特に、カッティングユニットの下を清掃します。サビを防ぐため、剥がれた塗装面をタッチアップします。
2. 磨耗、損傷部品がないか機械を点検し、緩んでいるナットやスクリューを増し締めします。
3. エンジンオイルを交換し、廃油は正しく処理します。
4. 燃料タンクを空にします。エンジンを始動し、キャブレター内の燃料が完全になくなりエンジンが停止するまで運転します。
5. スパークプラグを外し、各シリンダーにスプーン一杯のエンジンオイルを入れます。エンジンを回してオイルが均一に行き渡るようにし、それからスパークプラグを取り付けます。
6. すべてのグリスニップル、ジョイント、シャフト部にグリスを給油します。
7. バッテリーを取り外します。清掃、充電して冷暗所で保管します。
8. 機械を清潔で、乾燥した場所に保管し、保護のためカバーをして下さい。

ガード

保管や輸送の際、本機を保護するための純正カバーがあります 。商品をご購入の際は、販売代理店にお尋ね下さい。

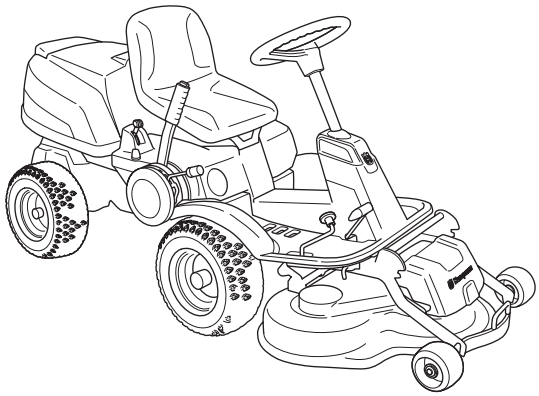
サービス

芝刈シーズンに機械を安全に使えるように、シーズンオフは機械のサービスあるいはオーバーホールを行うのに最適な時期です。

部品ご注文の際には、購入年月日、モデル、タイプ、製造番号を提示して下さい。

常に純正部品を使用して下さい。

定期点検や調整を正規販売代理店で行うことにより、来シーズン最良の状態で機械をご使用いただけます。



テクニカルデータ

	R 13 AWD
寸法	
長さ (カッティングユニット除く) mm/ft	2010/6,58
長さ (カッティングユニット含む) mm/ft	2220/7,29
幅 (カッティングユニット除く) mm/ft	880/2,89
幅 (カッティングユニット含む) mm/ft	1114/3,65
高さ mm/f	1070/3,52
重量 (カッティングユニット含む) kg/lb	270/595
ホイールベース mm/ft	855/2,8
トラック幅 (フロント) mm/ft	715/2,37
トラック幅 (リヤ) mm/ft	625/2,05
タイヤサイズ	165/60-8
空気圧、リヤ – フロント kPa / kp/cm³ / PSI	60 (0,6/8,5)
最大許容傾斜度	10°
エンジン	
メーカー / モデル	ブリグス＆ストラットン 219907011E1
出力 kW/hp	9,2/12,5
排気量 cm3/cu.in	465
無鉛ガソリン最低オクタン価	85
燃料タンク容量 L/USqt	7/7,4
オイル	SAE 5W/30 or SAE 10W/30
オイル容量(フィルター含む) L/USqt	1,4/1,5
始動法	セルフスタータ
電気システム	
タイプ	12 V、アース接地
バッテリー	12 V, 24 Ah
スパークプラブ	Champion (チャンピオン)QC12YC
プラグギャップ mm/inch	0,75/0,030
メインヒューズ	Spade connector, 7.5 A
騒音放出および刈幅	
実測音響レベル dB(A)	100
保証音響レベル dB(A)	100
刈幅 mm/inch	940/3,08
振動レベル	
EN 836:1997 / A2:2001 に則しステアリング ホイール上にて測定された振動レベル	2,5
トランスミッション	
メーカー	Tuff Torq
オイルSF-CC クラス	SAE 10W/40
前進段数	-
後進段数	-
前進 km/h	0-9
後進 km/h	0-6
カッティングユニット	
タイプ	Combi (コンビ) ロータリー3 枚刃
刈高7 段階調整 mm/inch	940mm 30-80/1.2-3.1
ブレード長さ mm/inch	360/14 3/16”

テクニカルデータ

重要情報 本機を廃棄する際には、販売店あるいはリサイクル業者にお渡し下さい。

重要情報 予告なく機械の改良や仕様・設計変更を行うことがあります。
本取扱説明書に記載されている情報に基づき、いかなる場合も法律や地域の条令に従うこと。
修理の際は純正部品のみ使用すること。純正部品以外をご使用の場合、保証対象外となります。

ＥＣ適合宣言 （ ヨーロッパにのみ適用）

Husqvarna AB (ハスクバーナ社)、SE-561 82 Huskvarna (ハスクバーナ)、スウェーデン、電話番号: +46-36-146500 は、製造番号が2005 年以降 (製造年とシリーズ番号は銘板に明記) の乗用芝刈機 Husqvarna Rider 15V2、Rider 15V2 AWD が、評議会指令の次の規定に従うことをここに宣言します:

1998 年6 月22 日付け「機械に関する」98/37/EC、補足IIA

1989 年5 月3 日付け「 電磁波適合性に関する」89/336/EEC、および適用補足文書

2000 年5 月8 日付け「環境への騒音排出に関する」2000/14/EC

騒音排出に関する詳細は「主要諸元(テクニカルデータ)」を参照して下さい。

次の標準規格にも適合しています: EN292-2、EN-836

試験機関:0404, SMP Svensk Maskinprovning AB (スウェーデン機械テスト), Fyrisborgsgatan 3, SE-754 50 Uppsala, スウェーデンは、2000 年5 月8 日付けの「環境への騒音排出に関する」評議会指令2000/14/EC の補足VI に適合することも認定しました。

Huskvarna (ハスクバーナ) 2006 年6 月9 日

Roger Andersson、開発部長/ ガーデンプロダクツ

株式会社 筑水キャニコム

http://www.canycom.co.jp/

■本社営業部 TEL 0943(75)2195 FAX (75)4396
■海外センター TEL 03(3552)6277 FAX (3552)6288
■東京センター TEL 03(3552)6255 FAX (3552)6288
■仙台センター TEL 022(281)1255 FAX (281)3141
■埼玉センター TEL 0495(77)4511 FAX (77)1561
■大阪センター TEL 0790(42)6031 FAX (42)6035
■広島センター TEL 0824(34)5996 FAX (34)5997
■福岡センター TEL 0943(76)2583 FAX (75)5126

本書の無断転載、複写を禁止します。

2006.10.26